

男女格差（ジェンダー平等） 県民意識調査

報告書

（2026年3月3日～3月31日調査）

I	目的・設計・回答状況	1
II	調査結果	3
	（i）単純集計	3
	（ii）概要	6
	（iii）集計表	38
	（iv）記述回答	63
III	調査票	74

本ホームページでは、報告書の一部を抜粋して掲載しています。長野県世論調査協会の会員の皆様には、報告書を郵送・電子メールでお届けしており、全ての調査結果をご覧いただくことができます。入会のお問い合わせは、[こちら](#)へどうぞ

I 目的・設計・回答状況

◆ 目的

近年、日本社会では、働き方や家庭のあり方、政治・地域活動への参画など、さまざまな分野で男女格差（ジェンダー平等）をめぐる議論が続いています。少子高齢化や人口減少が進む中、多様な人材が能力を発揮できる社会づくりの重要性は高まっており、男女共同参画やジェンダー平等は、地域社会の持続可能性にも関わる重要な課題となっています。

2026年は、1986（昭和61）年の男女雇用機会均等法施行から40年、1946（昭和21）年の女性参政権行使から80年の節目にあたります。法制度や社会環境は大きく変化し、女性の社会進出が進む一方、賃金格差や管理職比率、家事・育児負担、政治参画など、なお多くの課題が指摘されています。

長野県では、2026年度から第6次県男女共同参画計画がスタートし、地域・社会活動における女性リーダー育成や、DV・困難女性支援などを含め、ジェンダーの視点を踏まえた施策推進が進められています。

今回の調査は、こうした節目の年にあたり、県民の男女格差（ジェンダー平等）に関する意識や、働き方、地域社会、政治参画などにおける実感や課題認識を多角的に把握し、今後の施策や地域社会のあり方を考える一助とすることを目的として行いました。

◆ 設計

- ▽調査時期 2026（令和8）年3月3日（調査票発送）～3月31日（投函締め切り）
- ▽調査対象 長野県内に住む18歳以上の男女1,200人
- ▽抽出方法 層化三段無作為抽出法。市町村の選挙人名簿から無作為抽出
- ▽調査地点 19市8町8村の計35市町村
- ▽調査方法 郵送方式。調査票を郵送し、回答は郵送、インターネット、ファクスで回収

◆ 回答状況

▽有効回答 643人（男性286人 女性342人 回答しない15人）

▽回答率 53.6%

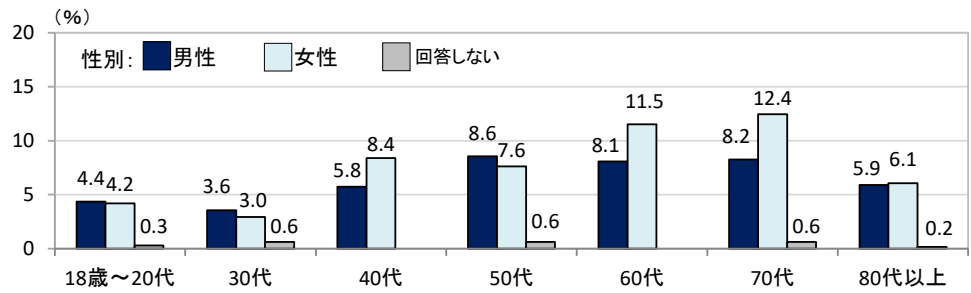
- [回収方法別の内訳]（ ）内は比率
- ・郵送 433人（67.3%）
 - ・インターネット 194人（30.2%）
 - ・ファクス 16人（2.5%）

【注】本報告書のパーセント数字は小数点第二位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

有効回答の内訳

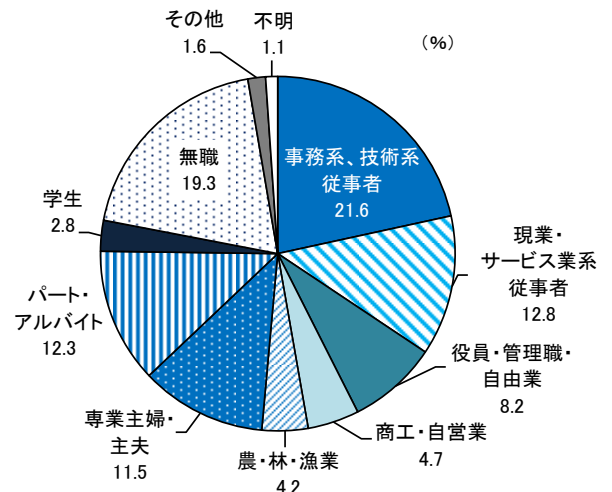
【年代と性別】

		合計	18歳～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
全体	(人)	643	57	46	91	108	126	137	78	
	(%)	100.0	8.9	7.2	14.2	16.8	19.6	21.3	12.1	
性別	男性	(人)	286	28	23	37	55	52	53	38
		(%)	44.5	4.4	3.6	5.8	8.6	8.1	8.2	5.9
	女性	(人)	342	27	19	54	49	74	80	39
		(%)	53.2	4.2	3.0	8.4	7.6	11.5	12.4	6.1
	回答しない	(人)	15	2	4	-	4	-	4	1
		(%)	2.3	0.3	0.6	-	0.6	-	0.6	0.2



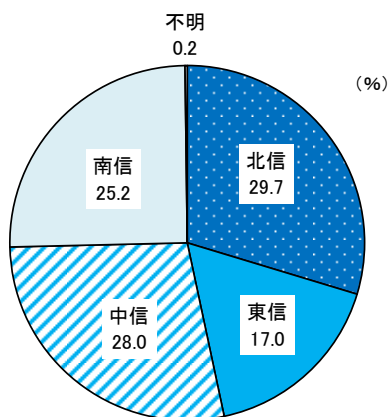
【職業】

	(人)	(%)
事務系、技術系従事者	139	21.6
現業・サービス業系従事者	82	12.8
役員・管理職・自由業	53	8.2
商工・自営業	30	4.7
農・林・漁業	27	4.2
専業主婦・主夫	74	11.5
パート・アルバイト	79	12.3
学生	18	2.8
無職	124	19.3
その他	10	1.6
不明	7	1.1
全体	643	100.0



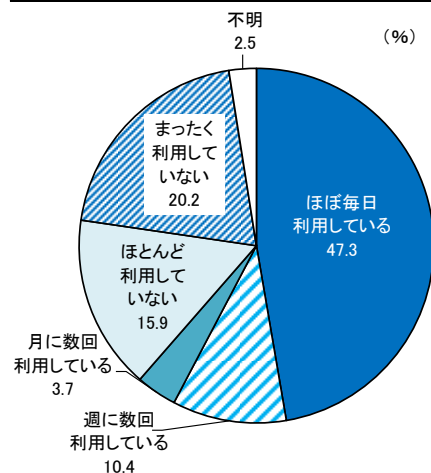
【地域】

	(人)	(%)
北信	191	29.7
東信	109	17.0
中信	180	28.0
南信	162	25.2
不明	1	0.2
全体	643	100.0



【SNSの利用頻度】

	(人)	(%)
ほぼ毎日利用している	304	47.3
週に数回利用している	67	10.4
月に数回利用している	24	3.7
ほとんど利用していない	102	15.9
まったく利用していない	130	20.2
不明	16	2.5
全体	643	100.0



II 調査結果

(i) 単純集計

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え
方について、あなたはどのように思いますか。

	(人)	(%)
・そう思う	12	1.9
・ある程度そう思う	92	14.3
・あまりそう思わない	176	27.4
・そう思わない	301	46.8
・どちらともいえない	60	9.3
・不明	2	0.3

問2 日本社会における男女間の格差は、どの程度解消され
ていると思いますか。

	(人)	(%)
・解消されている	16	2.5
・まあ解消されている	159	24.7
・あまり解消されていない	314	48.8
・解消されていない	107	16.6
・わからない	44	6.8
・不明	3	0.5

問3 あなたご自身は、男性・女性といった性別によって、不
利益を受けたと感じたことがありますか。

	(人)	(%)
・現在も感じている	123	19.1
・過去に感じたことはあるが 現在は無い	144	22.4
・感じたことはない	282	43.9
・わからない	82	12.8
・答えたくない	3	0.5
・不明	9	1.4

問4 (問3で「現在も感じている」「過去に感じたことはあるが
現在は無い」と回答した方にお聞きします)どのような場
面で不利益を受けたと感じましたか。

	(人)	(%)
・職場・仕事・賃金・待遇	159	59.6
・社会的な慣習や周りの意識・ 発言	157	58.8
・家事・育児	130	48.7
・介護	71	26.6
・食事会・飲み会	65	24.3
・結婚	57	21.3
・親のしつけ	53	19.9
・就職	52	19.5
・教育・進学	46	17.2
・服装	35	13.1
・トイレ	26	9.7
・その他	7	2.6
・不明	5	1.9

問5 あなたは、職場において男女は平等になっていると思
いますか。

	(人)	(%)
・男性の方が非常に優遇 されている	34	5.3
・どちらかといえば男性の方が 優遇されている	314	48.8
・平等	227	35.3
・どちらかといえば女性の方が 優遇されている	47	7.3
・女性の方が非常に優遇されている	7	1.1
・不明	14	2.2

問6 昇進・昇格において性別が影響すると思いますか。

	(人)	(%)
・大いに影響する	83	12.9
・ある程度影響する	339	52.7
・あまり影響しない	141	21.9
・まったく影響しない	26	4.0
・わからない	45	7.0
・不明	9	1.4

問7 長野県内での働き方において、女性が不利になりやす
い要因として、どれが大きいと思いますか。

	(人)	(%)
・家事・育児負担の偏り	448	69.7
・非正規雇用の多さ	205	31.9
・地域の慣習・文化	192	29.9
・長時間労働の慣行	135	21.0
・管理職登用の仕組み	130	20.2
・特になし	34	5.3
・わからない	35	5.4
・不明	7	1.1

問8 長野県の第5次男女共同参画計画(2021~25年度)に
よると、県内の官庁や企業などの管理職に占める女性
の割合は2017年度に8.4%で、全国平均を6.4ポイント
下回っています。この状況について、あなたはどのように感
じますか。

	(人)	(%)
・性別より個人の能力が重要	358	55.7
・改善すべき	212	33.0
・特に問題を感じない	20	3.1
・現状でもよい	13	2.0
・わからない	34	5.3
・不明	6	0.9

問9 育児・介護と仕事の両立支援制度について、あなたの認識に最も近いものはどれですか。

	(人)	(%)
・制度はあるが、職場の雰囲気などで利用しづらい	164	25.5
・女性は利用しやすいが、男性は利用しづらい	154	24.0
・性別に関係なく利用しづらい	135	21.0
・制度自体を知らない	129	20.1
・制度は整っており、性別に関係なく利用しやすい	48	7.5
・不明	13	2.0

問10 あなたの職場や周囲では、性別による役割分担がどのようにとらえられていると思いますか。

	(人)	(%)
・暗黙の期待として存在する	241	37.5
・一部の職種で偏りがある	142	22.1
・性別による役割分担はほとんど見られない	124	19.3
・性別による役割分担が明確に固定されている	41	6.4
・わからない	82	12.8
・不明	13	2.0

問11 性別を理由に、進路やキャリアの選択が制限される要因は何だと思いますか。

	(人)	(%)
・社会の性別役割意識	319	49.6
・職場の慣行・制度	264	41.1
・家庭や周囲の期待	164	25.5
・本人の性別を意識することによる選択	123	19.1
・学校での進路指導	30	4.7
・特になし	48	7.5
・わからない	63	9.8
・不明	16	2.5

問12 自治会など、あなたの地元の地域活動における男女構成は、どう見えますか。

	(人)	(%)
・男性が多い	332	51.6
・活動によって異なる	166	25.8
・男女がほぼ同じ	33	5.1
・女性が多い	17	2.6
・わからない	88	13.7
・不明	7	1.1

問13 伝統的な祭りにおける性別による役割分担について、あなたはどのように思いますか。

	(人)	(%)
・伝統として尊重すべき	199	30.9
・見直すべき	139	21.6
・一部変更すべき	128	19.9
・わからない	171	26.6
・不明	6	0.9

問14 地域のリーダー(町内会長、PTA 会長など)に男性が多い状況について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

	(人)	(%)
・性別に関係なく適任者が選ばれるべき	452	70.3
・女性が参加しやすい環境づくりが必要	78	12.1
・女性が少ないのは個人事情が主因	50	7.8
・性別に偏りがあっても問題ない	32	5.0
・わからない	27	4.2
・不明	4	0.6

問15 長野県では、進路や職業分野に男女の偏りが見られる(例:工業系は男子、看護系は女子など)との指摘があります。あなたは、こうした「男女の偏り」がどの程度あると思いますか。

	(人)	(%)
・大きくあると思う	117	18.2
・ある程度あると思う	409	63.6
・あまりないと思う	56	8.7
・ほとんどないと思う	10	1.6
・わからない	46	7.2
・不明	5	0.8

問16 進路や職業分野に男女の違いが生じる主な要因として、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

	(人)	(%)
・複数の要因が重なっている	179	27.8
・社会の慣習や性別役割意識	142	22.1
・本人の興味・関心の違い	130	20.2
・働き方や雇用条件の違い	118	18.4
・家庭や周囲の期待・影響	17	2.6
・学校での進路指導や教育の影響	12	1.9
・特に要因はないと思う	14	2.2
・わからない	25	3.9
・不明	6	0.9

問17 長野県議会の女性議員割合は 19.3%で全国平均より 4.7 ポイント高く、全国6位、市町村議会の女性議員割合は 19.4%で全国平均より 1.8 ポイント高く、全国9位です。この状況について、あなたはどのように感じますか。

	(人)	(%)
・十分	47	7.3
・やや少ない	144	22.4
・かなり少ない	60	9.3
・特に気にしたことはない	350	54.4
・わからない	39	6.1
・不明	3	0.5

問18 議会における女性議員の割合について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

	(人)	(%)
・性別より個人の資質が重要	424	65.9
・今より増えた方がよい	94	14.6
・男女の人口構成に近い割合が望ましい	68	10.6
・現状で問題ない	16	2.5
・わからない	37	5.8
・その他	2	0.3
・不明	2	0.3

問19 女性が議員になりにくい要因として、最も大きいと思うものはどれですか。

	(人)	(%)
・家庭・育児・介護との両立	183	28.5
・男性中心の政治文化	167	26.0
・女性自身の関心・意欲	134	20.8
・立候補を後押しする仕組みの不足	55	8.6
・経済的・時間的負担	41	6.4
・特に障壁はない	24	3.7
・わからない	35	5.4
・不明	4	0.6

問20 選択的夫婦別姓制度について、どの程度知っていますか。

	(人)	(%)
・制度の内容や背景、賛否の議論まで知っている	75	11.7
・概要は知っている	261	40.6
・聞いたことがあるが詳しくは知らない	261	40.6
・ほとんど知らない	25	3.9
・まったく知らない	19	3.0
・不明	2	0.3

問21 選択的夫婦別姓制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

	(人)	(%)
・導入すべき	116	18.0
・導入してもよいが慎重な議論が必要	194	30.2
・どちらともいえない	139	21.6
・導入に反対	46	7.2
・現行制度のまままでよい	90	14.0
・わからない	49	7.6
・その他	6	0.9
・不明	3	0.5

問22 選択的夫婦別姓制度が導入された場合、あなた自身や身近な人に影響があると思いますか。

	(人)	(%)
・大きな影響がある	38	5.9
・ある程度影響がある	108	16.8
・あまり影響はない	227	35.3
・ほとんど影響はない	135	21.0
・わからない	124	19.3
・不明	11	1.7

問23 (問22で「大きな影響がある」「ある程度影響がある」と答えた方にお聞きします)どのような影響があると考えますか。

(記述回答63～67ページ)

問24 男女格差やジェンダー平等の問題を、どの程度「自分自身の問題」と感じていますか。

	(人)	(%)
・非常に自分ごと	25	3.9
・ある程度関係する	142	22.1
・社会全体の問題だが自分とは距離がある	255	39.7
・あまり関係ない	134	20.8
・まったく関係ない	45	7.0
・わからない	36	5.6
・不明	6	0.9

問25 ジェンダーに関する社会的な変化について、あなた自身はどのように関わりたいと思いますか。

	(人)	(%)
・社会の動きを見守りたい	239	37.2
・情報を得て考えたい	157	24.4
・家族・身近な人との会話で意識したい	111	17.3
・積極的に行動したい	23	3.6
・特に関心はない	105	16.3
・その他	4	0.6
・不明	4	0.6

問26 長野県や県内市町村が施策として男女格差の是正で力を入れるべき分野はどれだと思えますか。次の中から3つ以内で選んでください。

	(人)	(%)
・働き方・雇用	464	72.2
・子育て・介護との両立	433	67.3
・行政	191	29.7
・暴力・ハラスメント対策	165	25.7
・地域活動	142	22.1
・教育	137	21.3
・政治	131	20.4
・わからない	26	4.0
・その他	4	0.6
・不明	3	0.5

(ii) 概要

有効回答 643 人

性別役割意識

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

◆「夫は仕事、妻は家庭」に否定74% 若年層で顕著

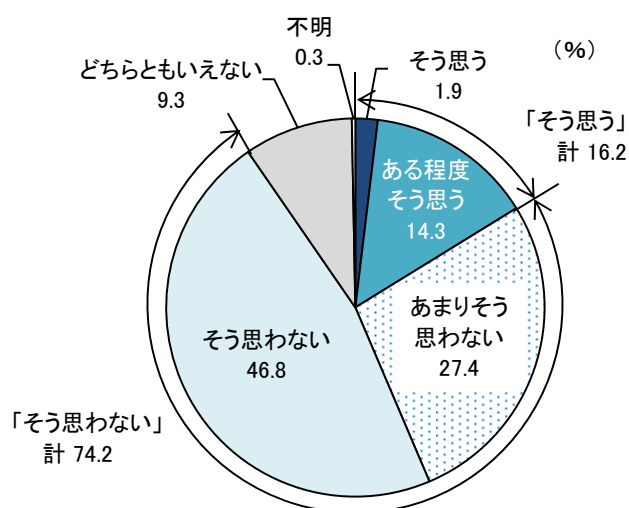
集計表38ページ

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「そう思う」(1.9%)、「ある程度そう思う」(14.3%)を合わせた肯定的回答は合計16.2%となった。一方、「あまりそう思わない」(27.4%)、「そう思わない」(46.8%)を合わせた否定的回答は合計74.2%に達した。「どちらともいえない」は9.3%。

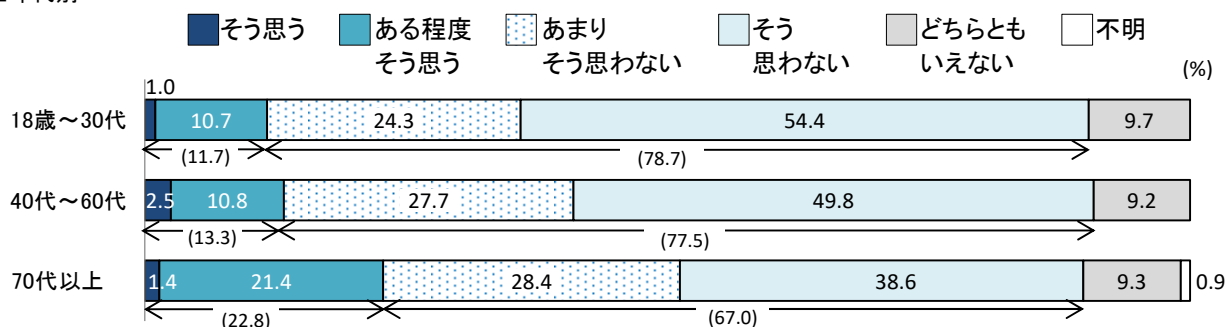
年代別では、18歳～30代で否定的回答が78.7%と最も高く、40代～60代でも77.5%となっている。一方、70代以上は67.0%と10ポイント超下回り、肯定的意見が22.8%と2割を超え、世代間で価値観の差が表れている。

地区別にみると、肯定的回答は北信、中信、南信では13～16%台だが、東信は23.9%と全県平均を7ポイント以上上回る結果となった。

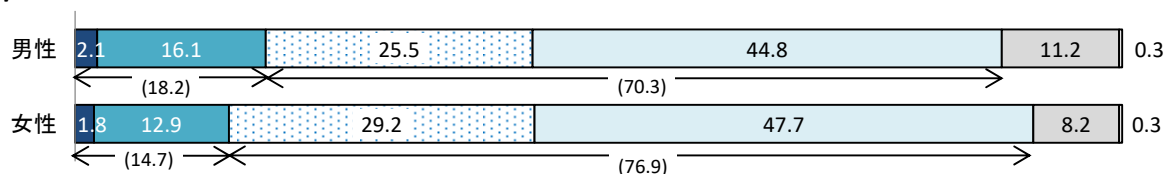
男女別でみると、否定的回答の合計が男性は70.3%、女性は76.9%で、わずかに女性が上回ったが、大きな差はみられなかった。



■年代別



■男女別



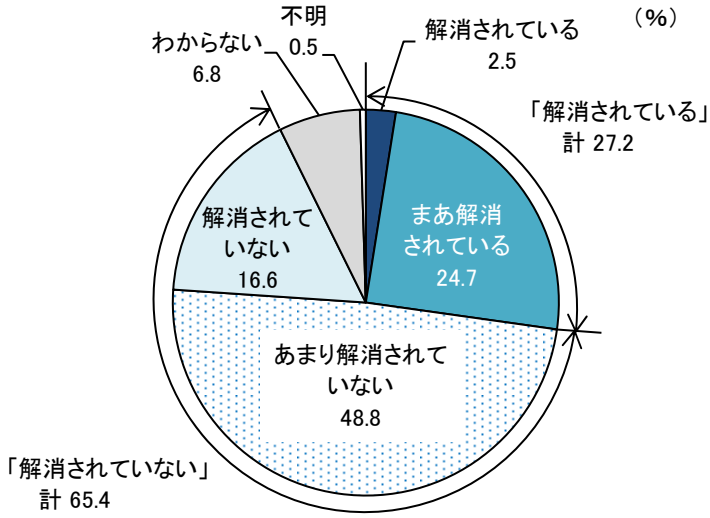
男女格差認識

問2 日本社会における男女間の格差は、どの程度解消されていると思いますか。

◆ 格差「解消されていない」65% 厳しい現実評価

集計表39ページ

男女間の格差については、「解消されている」が2.5%、「まあ解消されている」が24.7%で、解消されているとの認識は合計27.2%だった。一方、「あまり解消されていない」は48.8%、「解消されていない」は16.6%となり、解消されていないとの認識は合計65.4%となった。「わからない」は6.8%。

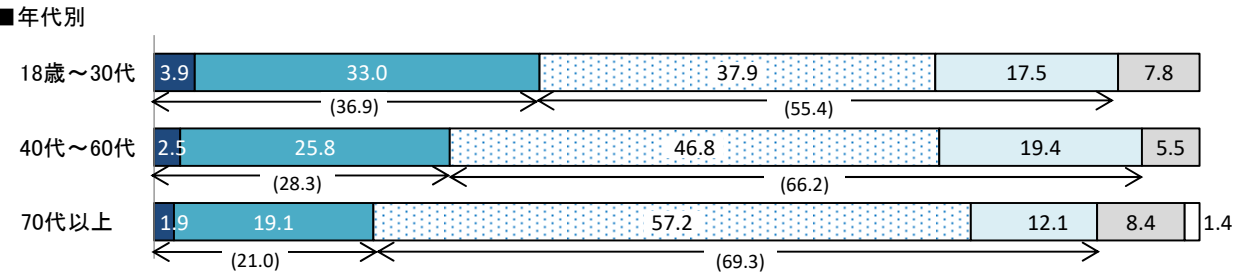
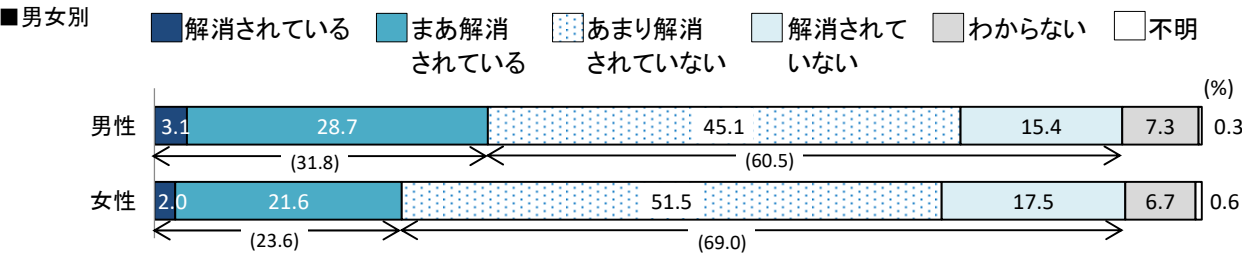


男女格差は依然として解消されていないとの認識が多数を占めた。

男女別でみても、解消されていないとの認識の合計は、男性が60.5%、女性が69.0%で、ともに6割を超えた。

年代別にみても、18歳～30代で5割強、40代～60代で6割強、70代以上で7割近くが、解消されていないと思っている層が占めた。

問1（性別役割意識）では固定的な性別役割への否定的意見が多数だった一方、本設問では男女格差の解消について厳しい評価が目立った。固定的役割意識への否定が広がる一方、男女格差の解消実感はなお限定的だった。



性別による不利益の経験

問3 あなたご自身は、男性・女性といった性別によって、不利益を受けたと感じたことがありますか。

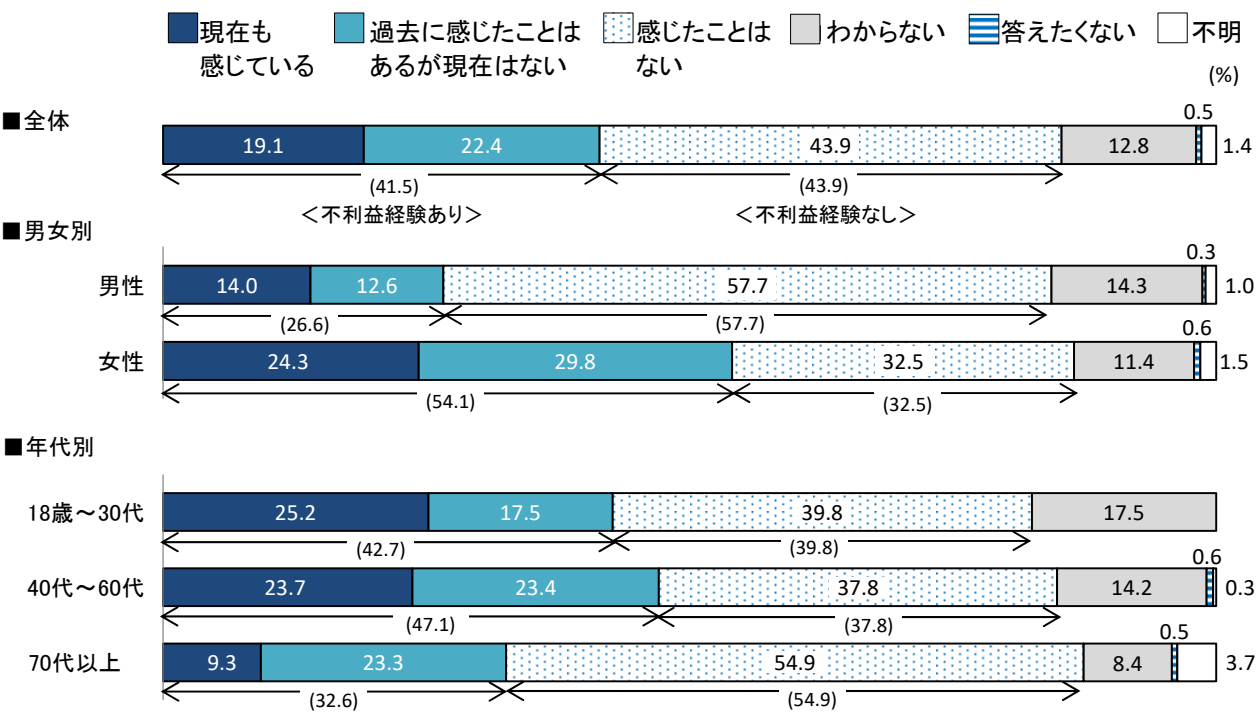
◆ 不利益の経験あり42%、女性は54%で男性の倍

集計表40ページ

性別によって不利益を受けた経験については、「現在も感じている」19.1%、「過去に感じたことはあるが現在は無い」22.4%で、経験があるとする回答は合計41.5%となり、4割を超える結果となった。一方、「感じたことはない」は43.9%で、経験ありとほぼ同じ割合となった。「わからない」は12.8%、「答えたくない」は0.5%だった。

男女別でみると、不利益経験があるとの回答は男性が計26.6%なのに対し、女性は54.1%と過半数を超え、女性の方が27.5ポイント高い結果となった。一方、「感じたことはない」は男性が57.7%だったのに対し、女性は32.5%にとどまり、25.2ポイント差となった。

年代別にみると、不利益経験があるとの回答は18歳～30代が42.7%、40代～60代が47.1%と4割を超え、いずれも「感じたことはない」を上回った。一方、70代以上では不利益経験があるとの回答は32.6%と3割台に低下し、「感じたことはない」が54.9%と半数を超えた。

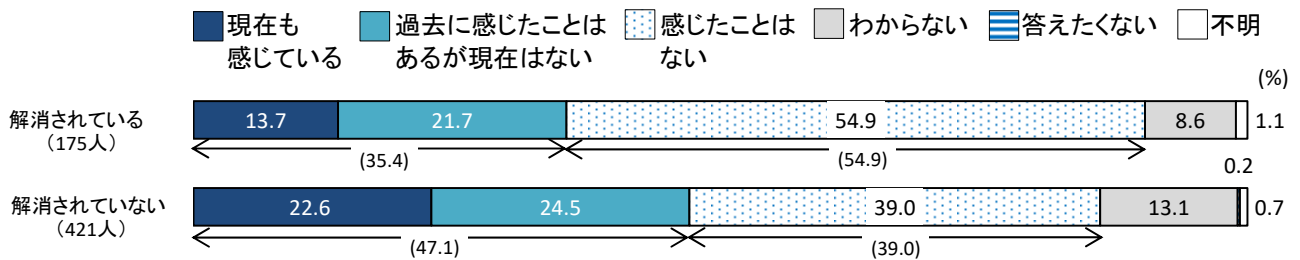


問2（男女格差の認識）とのクロス集計でみると、男女格差は「解消されている」「まあ解消されている」と回答した人（175人）のうち、不利益経験があるとの回答は35.4%だったのに対し、経験がないとの回答は54.9%で19.5ポイントも高かった。

一方で、男女格差が「あまり解消されていない」「解消されていない」と回答した人（421人）でみると、不利益経験がある人は47.1%に上り、経験がないと回答した人（39.0%）を8.1ポイント上回った。

男女格差解消の認識は、不利益経験の有無によって差がみられた。

■クロス集計 問2「男女格差認識」×問3「性別による不利益の経験」

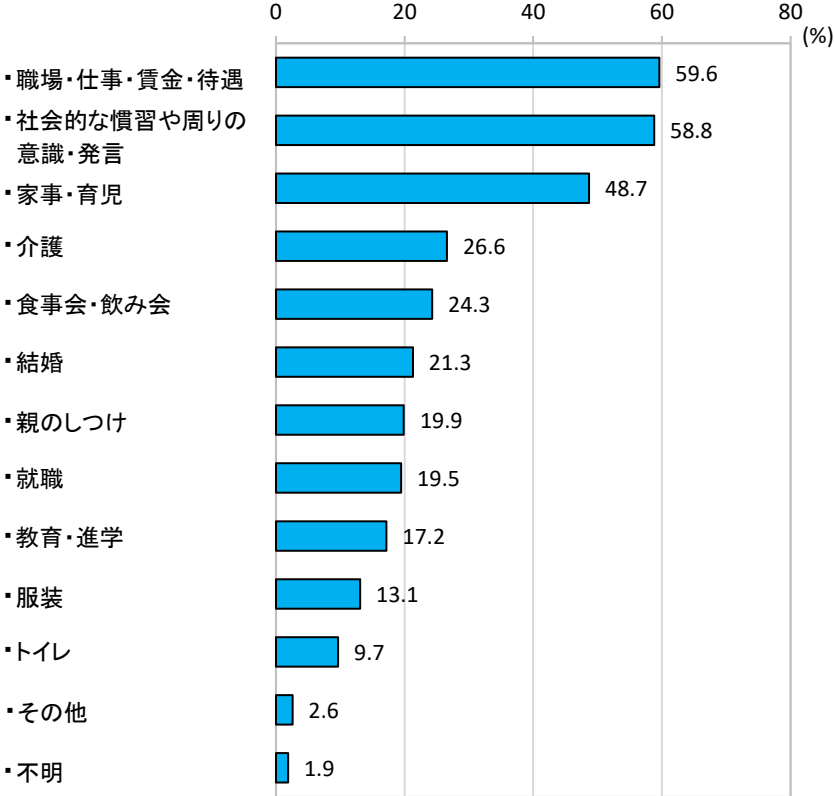


不利益の場面

問4 (問3で「現在も感じている」「過去に感じたことはあるが現在は無い」と回答した方にお聞きします) どのような場面で不利益を受けたと感じましたか。

◆ 不利益経験は「職場・賃金」「慣習・発言」「家事・育児」に集中 集計表41ページ

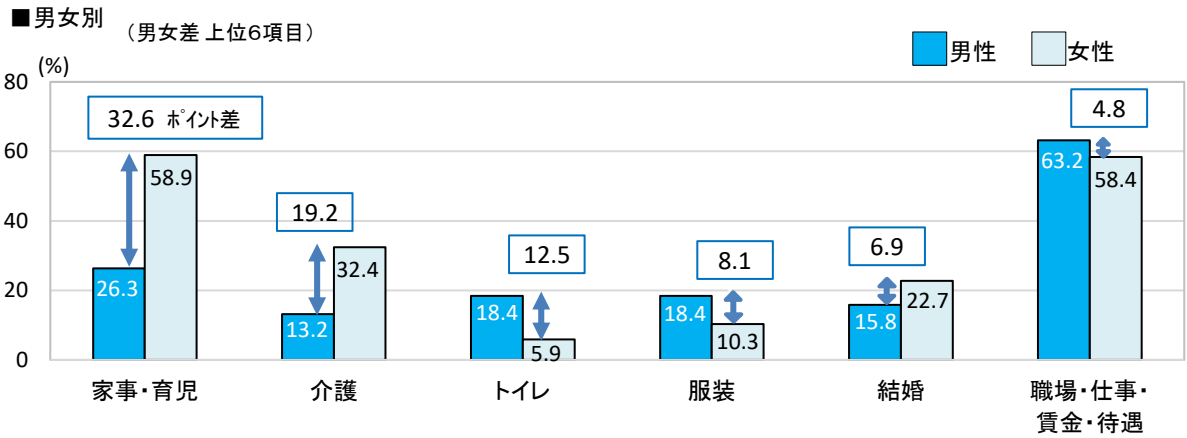
問3で不利益経験ありと回答した267人に、不利益を受けた場面を複数回答で聞いたところ、「職場・仕事・賃金・待遇」59.6%、「社会的な慣習や周りの意識・発言」58.8%で過半数が挙げる結果となり、ほぼ同水準で上位となった。続いて「家事・育児」が48.7%で半数近くを占め、不利益を感じる場面は、職場環境だけでなく、家庭内役割や地域的慣習にも広がっていた。



4番手以降は、「介護」

(26.6%)、「食事会・飲み会」(24.3%)、「結婚」(21.3%)となった。

男女別では、女性のトップは「家事・育児」が58.9%と6割近くに達し、男性(26.3%)を32.6ポイントも上回る結果となった。



職場での平等感

問5 あなたは、職場において男女は平等になっていると思いますか。

◆ 「男性優遇」54%、「平等」は35%

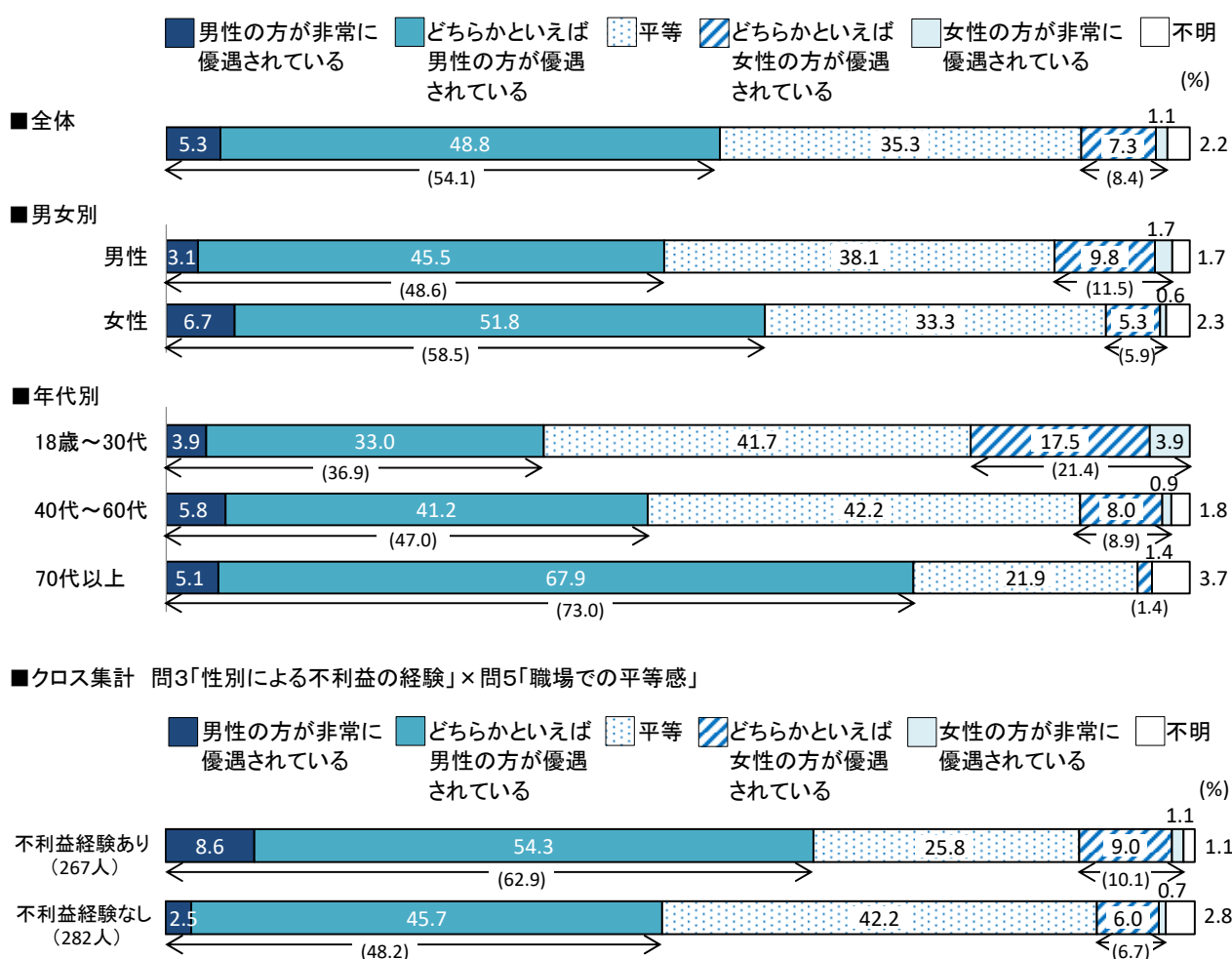
集計表42ページ

職場が男女平等かを聞いたところ、「男性の方が非常に優遇されている」5.3%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」48.8%で、「男性優遇」が計54.1%と過半数を占めた。「平等」は35.3%にとどまった。「女性優遇」は計8.4%だった。

男女別にみると、「男性優遇」は男性が計48.6%なのに対し、女性は計58.5%を占め、10ポイント近く上回った。「平等」は男性が38.1%なのに対し、女性は33.3%と5ポイント近く下回った。男女間で、職場の男女平等認識に差がみられた。

年代別にみると、18歳～30代は「平等」(41.7%)が最多で、「男性優遇」(36.9%)を上回った。「女性優遇」も21.4%と一定割合を占めた。40代～60代は「男性優遇」が47.0%と多く、続いて「平等」が42.2%、「女性優遇」は8.9%にとどまった。

問3とのクロス集計では、性別による不利益経験が「ある」と回答した層では、「男性優遇」が合計62.9%に達し、「平等」を大きく上回った。一方、不利益経験が「ない」層では、「平等」が「男性優遇」の割合に近づき、不利益経験の有無によって回答傾向に差がみられた。



昇進・昇格への影響

問6 昇進・昇格において性別が影響すると思いますか。

◆ 昇進に性別は「影響する」66%

集計表43ページ

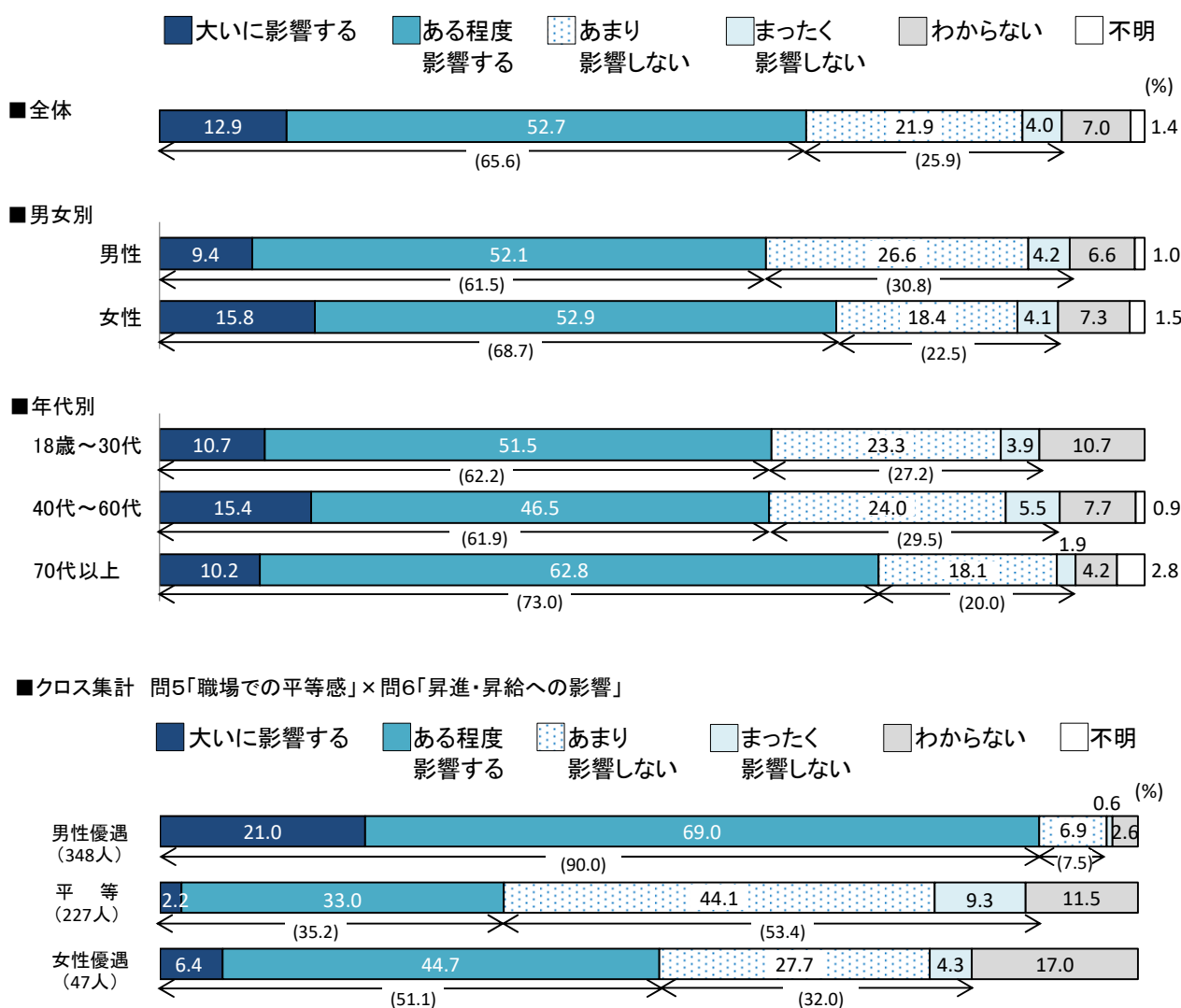
昇進・昇格に性別が影響するか聞いたところ、「大いに影響する」(12.9%)と「ある程度影響する」(52.7%)を合わせた「影響する」は65.6%で6割超を占めた。「あまり影響しない」(21.9%)、「まったく影響しない」(4.0%)を合わせた「影響しない」は25.9%にとどまった。

男女別にみると、「影響する」は男性が61.5%、女性は68.7%で、女性が7.2ポイント上回るが、ともに6割を超える高い割合となった。

年代別にみても、「影響する」は18歳~30代(62.2%)、40代~60代(61.9%)ともに6割を超え、70代以上では73.0%を占めた。

職業別にみると、「影響する」は商工・自営業(83.3%)が8割超と高く、パート・アルバイト(65.9%)が6割台、農・林・漁業(51.8%)が5割台だった。

問5(職場での平等感)とのクロス集計では、職場で「男性優遇」と感じている層は、昇進・昇格に性別が「影響する」が90.0%を占めた。一方、「平等」と回答した層では、逆に「影響しない」(53.4%)が過半数を占めた。



女性が不利になる要因

問7 長野県内での働き方において、女性が不利になりやすい要因として、どれが大きいと思いますか。

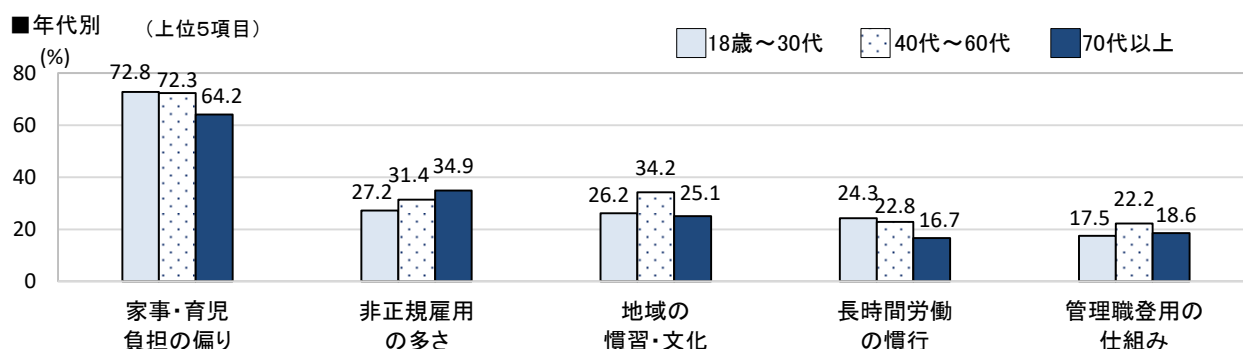
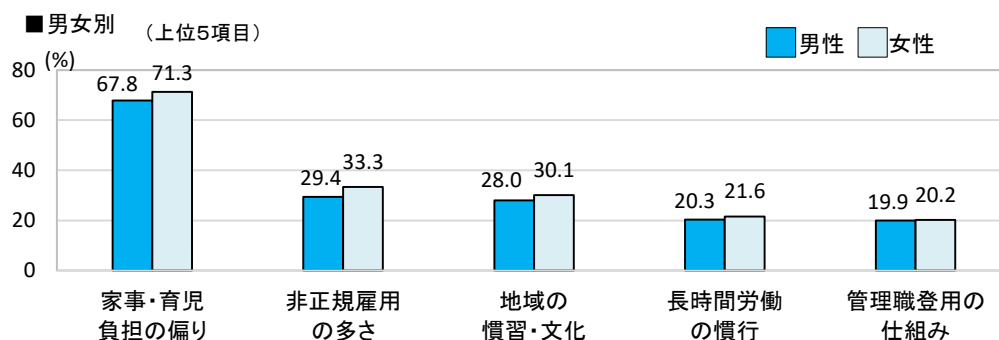
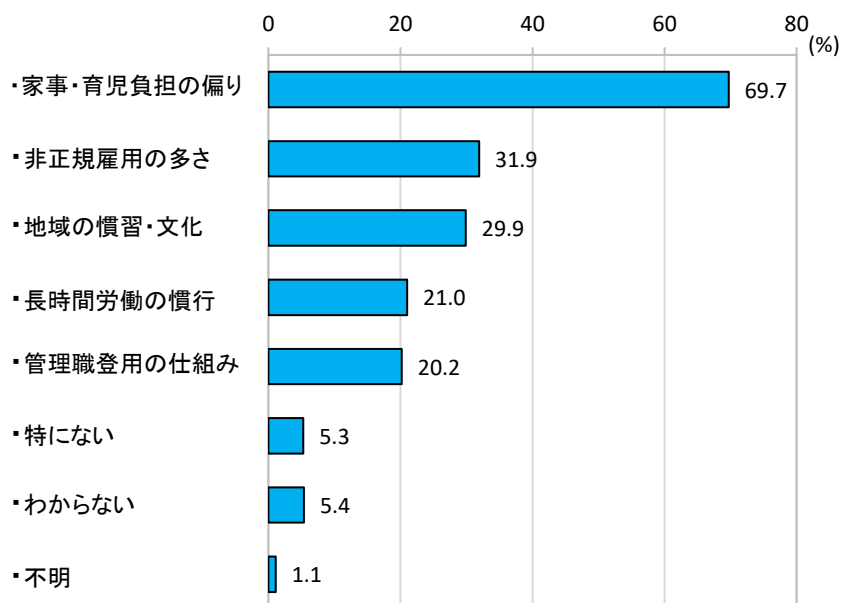
◆「家事・育児負担の偏り」7割で最多

集計表44ページ

長野県内の働き方において、女性が不利になりやすい要因を複数回答で聞いたところ、「家事・育児負担の偏り」(69.7%)が約7割を占め、突出して高い結果となった。次いで「非正規雇用の多さ」(31.9%)、「地域の慣習・文化」(29.9%)が3割近くを占め、「長時間労働の慣行」(21.0%)、「管理職登用の仕組み」(20.2%)と続いた。

男女別にみると、男女とも「家事・育児負担の偏り」が最も高かった。「非正規雇用の多さ」や「地域の慣習・文化」を挙げる割合も比較的高かった。女性が不利になりやすい背景として、家庭内負担を挙げる声が強い一方で、雇用構造や地域社会の慣習を重視する傾向も一定程度みられた。

年代別にみると、各年代とも「家事・育児負担の偏り」が共通して最も高い。2番目に高い項目としては18歳～30代、70代以上が「非正規雇用の多さ」だが、40代～60代では「地域の慣習・文化」(34.2%)となり、3分の1以上が要因として挙げた。



女性管理職の割合

問8 長野県の第5次男女共同参画計画（2021～25年度）によると、県内の官庁や企業などの管理職に占める女性の割合は2017年度に8.4%で、全国平均を6.4ポイント下回っています。この状況について、あなたはどのように感じますか。

集計表45ページ

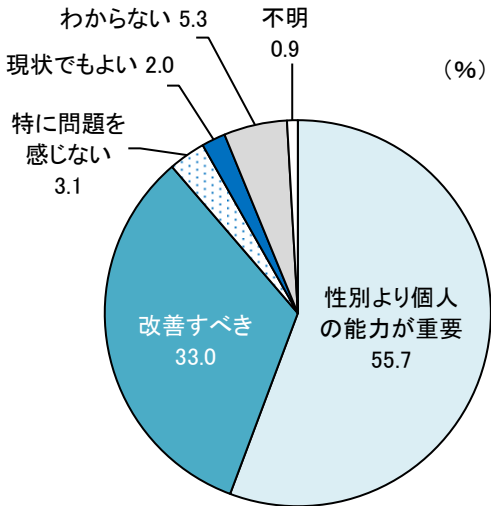
◆「性別より能力が重要」トップ56%

長野県内の官庁や企業などの女性管理職の割合が全国平均を下回っている状況について聞いたところ、「性別より個人の能力が重要」が55.7%で最多となった。「改善すべき」が33.0%と3割を超えた。「現状でもよい」(2.0%)、「特に問題を感じない」(3.1%)はわずかだった。

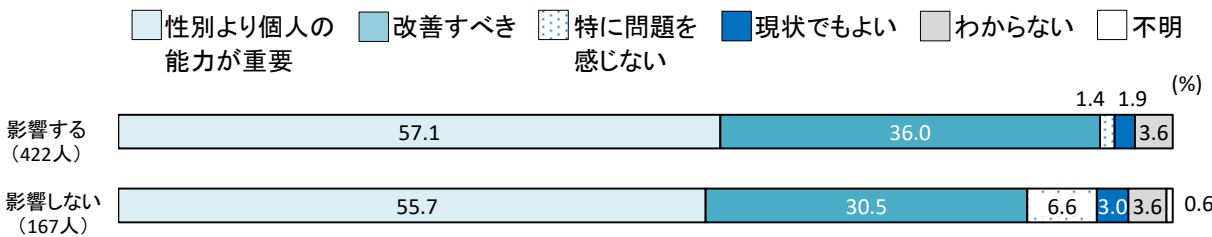
能力重視の考え方が主流となる一方、女性管理職比率の現状に課題意識を持つ層も一定数存在した。

男女別、年代別でも回答傾向は大きく変わらず、「性別より個人の能力が重要」とする回答が多数を占めた。

問6とのクロス集計では、昇進・昇格に性別が「影響する」と回答した層では、「改善すべき」が36.0%だったが、「影響しない」層では30.5%とやや低かった。昇進機会への影響認識によって、女性管理職比率への評価傾向にもやや差がみられた。



■クロス集計 問6「昇進・昇格への影響」×問8「女性管理職の割合」



育児・介護と仕事の両立支援制度

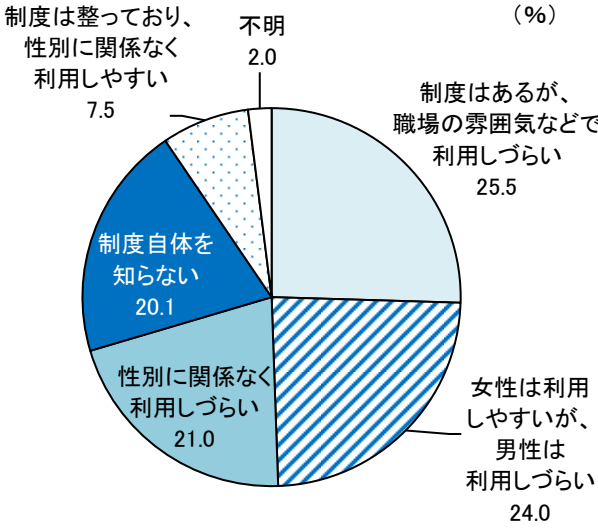
問9 育児・介護と仕事の両立支援制度について、あなたの認識に最も近いものはどれですか。

集計表46ページ

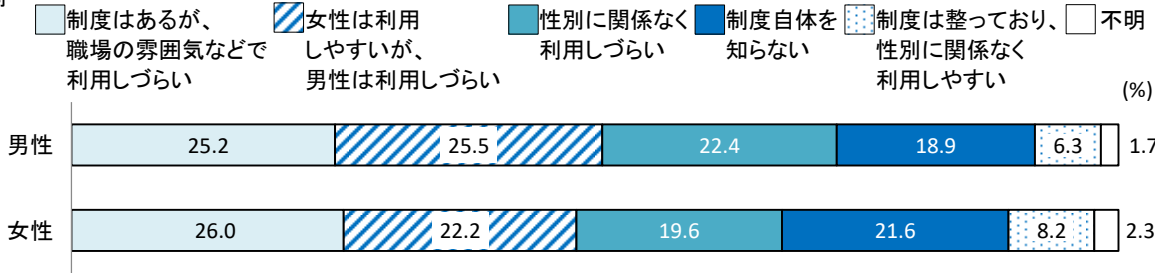
◆「利用しづらい」7割

「制度はあるが、職場の雰囲気などで利用しづらい」が25.5%、「女性は利用しやすいが、男性は利用しづらい」が24.0%、「性別に関係なく利用しづらい」が21.0%となっており、「利用しづらい」との回答が計7割を占めた。「制度自体を知らない」も20.1%あった。一方で、「制度は整っており、性別に関係なく利用しやすい」との回答はわずか7.5%にとどまった。

男女別、年代別でも回答傾向は大きく変わらず、制度運用や職場風土に課題を感じている様子が見えられた。



■男女別



性別による役割分担意識

問10 あなたの職場や周囲では、性別による役割分担がどのようにとらえられていると思いますか。

◆「暗黙の期待が存在」最多38%

集計表47ページ

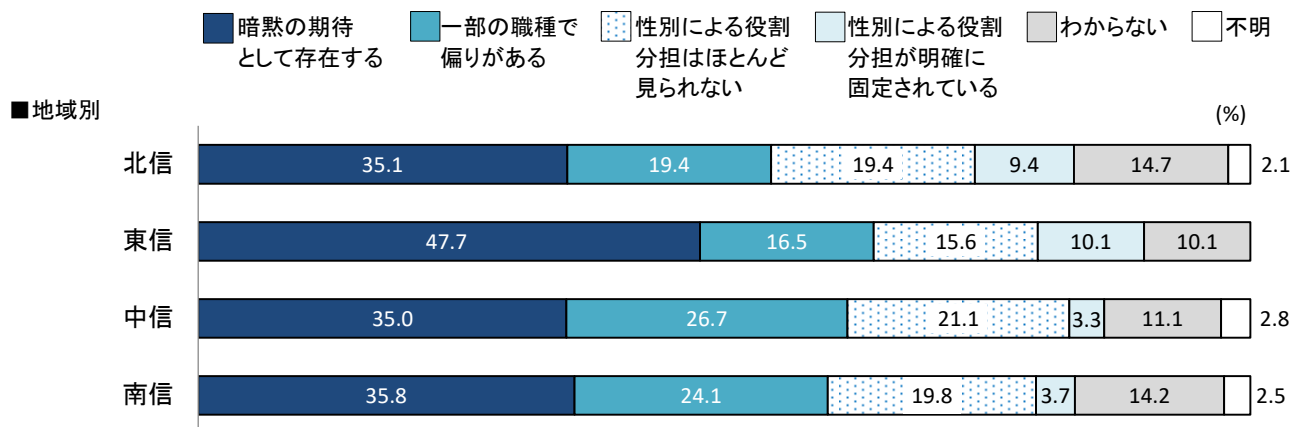
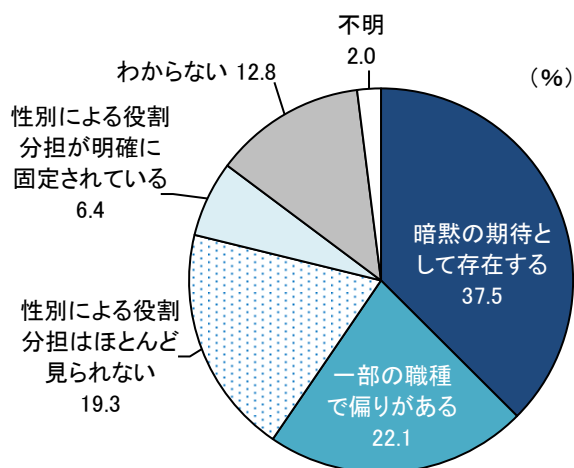
職場や周囲における性別の役割分担については、「暗黙の期待として存在する」が37.5%で最多。「一部の職種で偏りがある」が22.1%、「ほとんど見られない」が19.3%が続いた。

「性別による役割分担が明確に固定されている」は6.4%にとどまった。

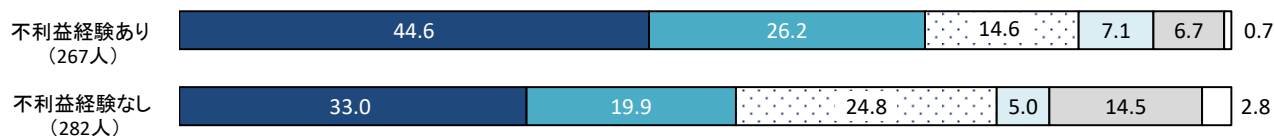
「暗黙の期待として存在する」は、男女差は小さい一方、高齢層でやや高い傾向がみられた。

地域別でみると、「暗黙の期待として存在する」は北信、中信、南信がいずれも35%台なのに対し、東信では47.7%と他地区より高かった。

性別による不利益経験を聞いた問3とのクロス集計では、「暗黙の期待として存在する」との回答は、不利益経験ありと回答した人の44.6%を占めたのに対し、不利益経験なしと回答した人では33.0%にとどまった。

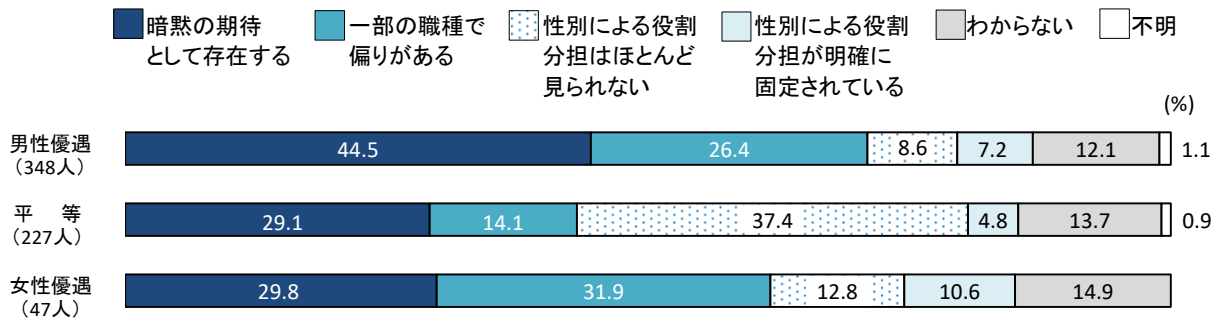


■クロス集計 問3「性別による不利益の経験」×問10「性別による役割分担意識」



さらに問5（職場での平等感）とのクロス集計では、職場で「男性優遇」と感じている層では、「暗黙の期待として存在する」との回答が44.5%を占め、「ほとんど見られない」（8.6%）を大きく上回った。一方、「平等」と感じている層では、「ほとんど見られない」の割合が37.4%と相対的に高まり、回答傾向に差がみられた。

■クロス集計 問5「職場での平等感」×問10「性別による役割分担意識」



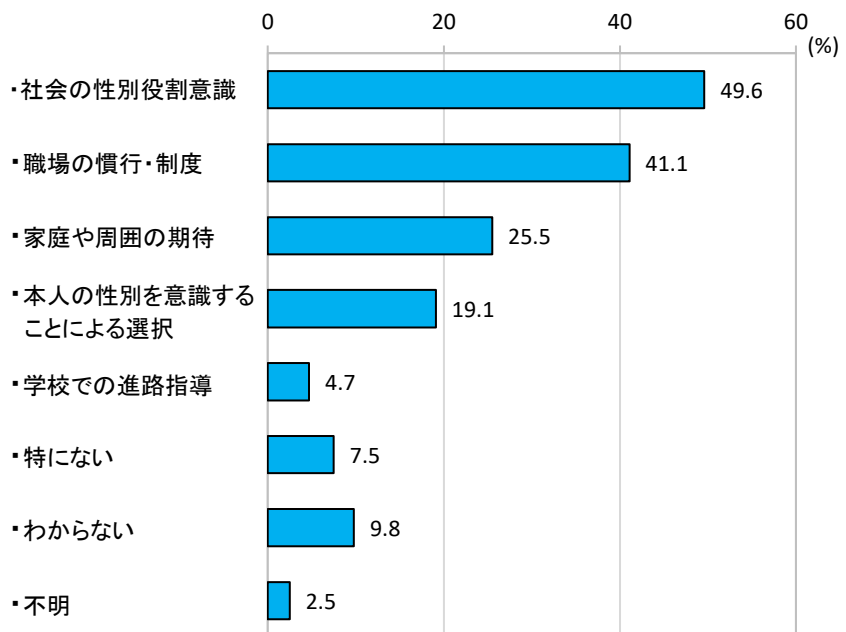
キャリア制約の要因

問11 性別を理由に、進路やキャリアの選択が制限される要因は何だと思えますか。

◆制約は「社会の性別役割意識」「職場の慣行・制度」が上位

集計表48ページ

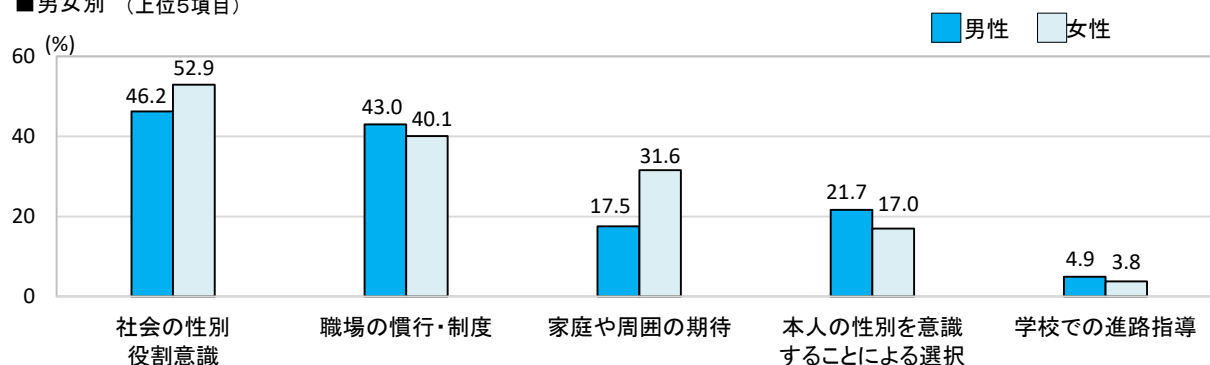
性別を理由にした進路やキャリア選択の制限要因を複数回答で聞いたところ、「社会の性別役割意識」が49.6%、「職場の慣行・制度」が41.1%で4割を超え、「家庭や周囲の期待」25.5%、「本人の性別を意識することによる選択」19.1%と続いた。



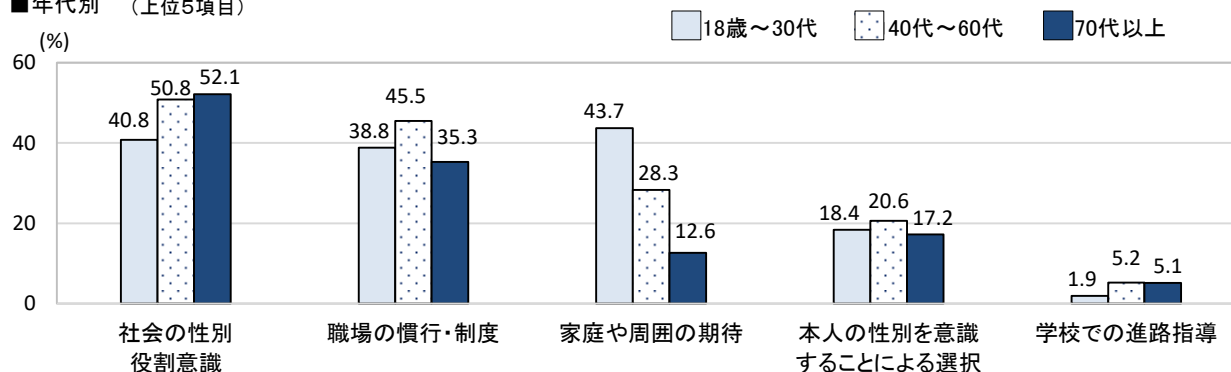
男女別にみると、男性、女性ともに「社会の性別役割意識」が最多となったが、女性では「家庭や周囲の期待」を挙げる割合が31.6%と男性よりかなり高かった。一方、男性では「本人の性別を意識することによる選択」が女性よりやや高かった。

年代別にみると、中年層（40代～60代）と高齢層（70代以上）は「社会の性別役割意識」が最多となり、過半数が挙げたが、若年層（18歳～30代）では「家庭や周囲の期待」（43.7%）が最多だった。

■男女別（上位5項目）



■年代別（上位5項目）



自治会などの地域活動

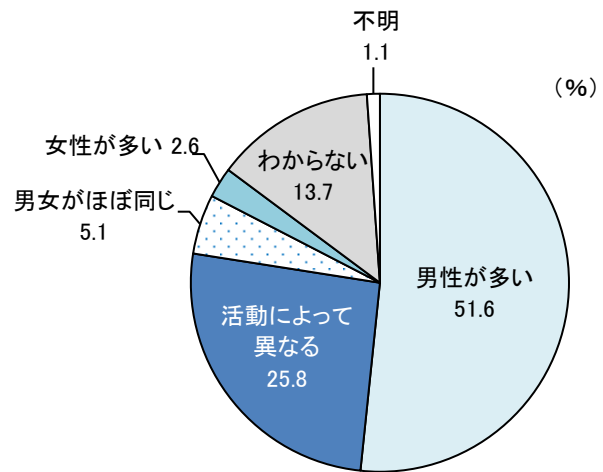
問 12 自治会など、あなたの地元の地域活動における男女構成は、どう見えますか。

集計表49ページ

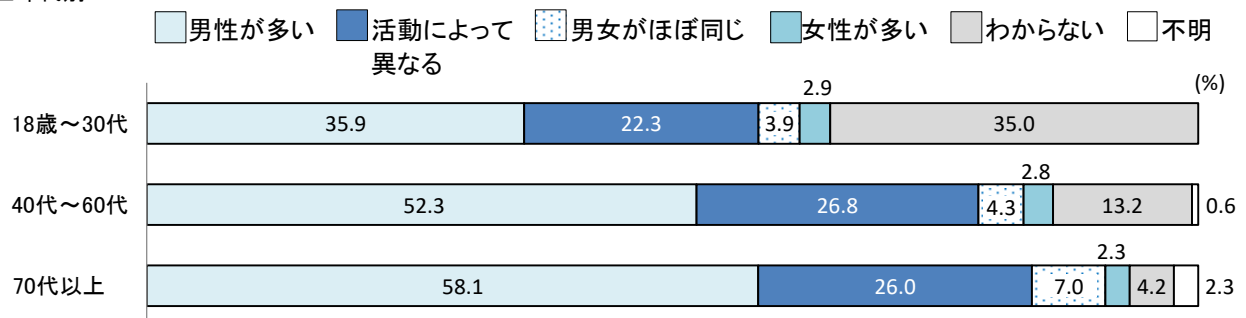
◆地域活動「男性が多い」52%

地元の地域活動における男女構成がどう見えるか聞いたところ、「男性が多い」が51.6%と過半数を占めた。「活動によって異なる」が25.8%、「わからない」が13.7%で続いた。「男女がほぼ同じ」は5.1%、「女性が多い」は2.6%にとどまり、男性中心の構成との認識が多数派となった。

年代別にみると、どの年代も「男性が多い」が多数派だが、中年層（40代～60代）と高齢層（70代以上）が50%台なのに対し、若年層（18歳～30代）は30%台にとどまった。「わからない」は、若年層で35.0%に上った。



■年代別



祭りの役割分担

問 13 伝統的な祭りにおける性別による役割分担について、あなたはどのように思いますか。

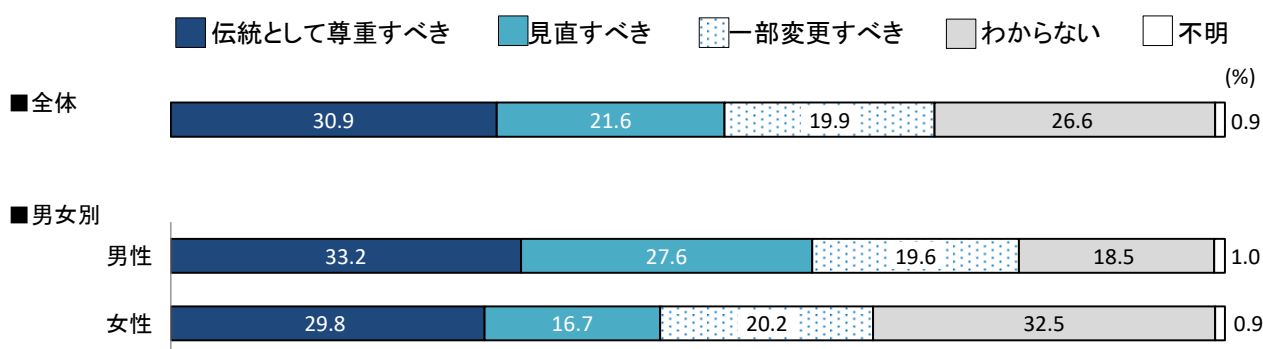
◆「伝統として尊重すべき」31%、「わからない」も27%

集計表50ページ

伝統的な祭りにおける性別の役割分担について聞いたところ、「伝統として尊重すべき」が30.9%。次いで「わからない」が26.6%で続いた。「見直すべき」は21.6%となり、「一部変更すべき」の19.9%を合わせた見直し支持層は4割を占めた。

男女別でみると、見直し支持層は男性の半数近くを占めたが、女性は4割弱にとどまった。「わからない」は女性が32.5%と男性より14ポイント高かった。「伝統として尊重すべき」は男性（33.2%）と女性（29.8%）で3.4ポイント差にとどまった。

男性では「見直すべき」が比較的高かった一方、女性は「わからない」が3割を超え、伝統行事のあり方への評価を保留する傾向もうかがえた。



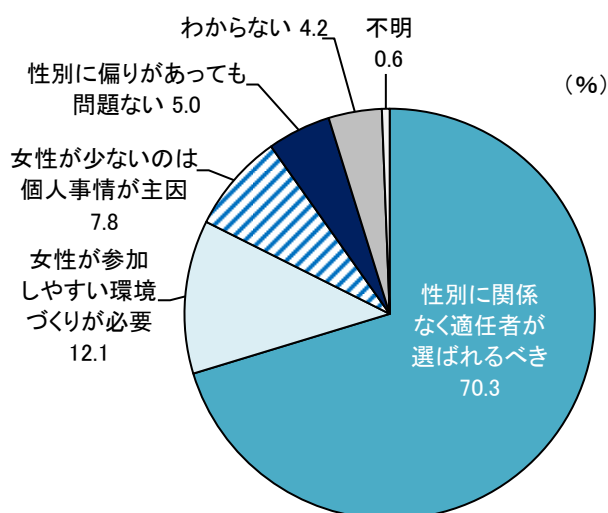
地域リーダーの男女構成

問 14 地域のリーダー（町内会長、PTA会長など）に男性が多い状況について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

◆「適任者選出」70% 性別より能力重視が主流

集計表51ページ

地域のリーダーに男性が多い状況について、「性別に関係なく適任者が選ばれるべき」が70.3%と7割を占め、最も多かった。次いで「女性が参加しやすい環境づくりが必要」が12.1%、「女性が少ないのは個人事情が主因」が7.8%となった。「性別に偏りがあっても問題ない」は5.0%、「わからない」は4.2%だった。

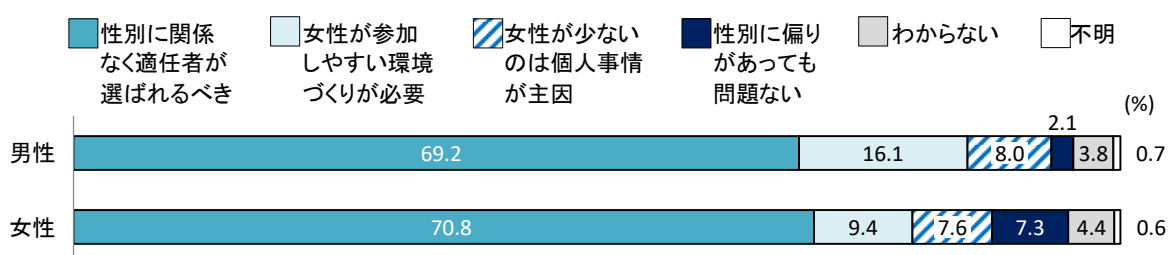


男女別では、「性別に関係なく適任者が選ばれるべき」は男性 69.2%、女性 70.8%で大きな差はみられなかった。一方、「女性が参加しやすい環境づくりが必要」は男性 16.1%に対し女性 9.4%で、男性が 6.7 ポイント高く、女性参加に関する回答割合にやや男女差がみられた。

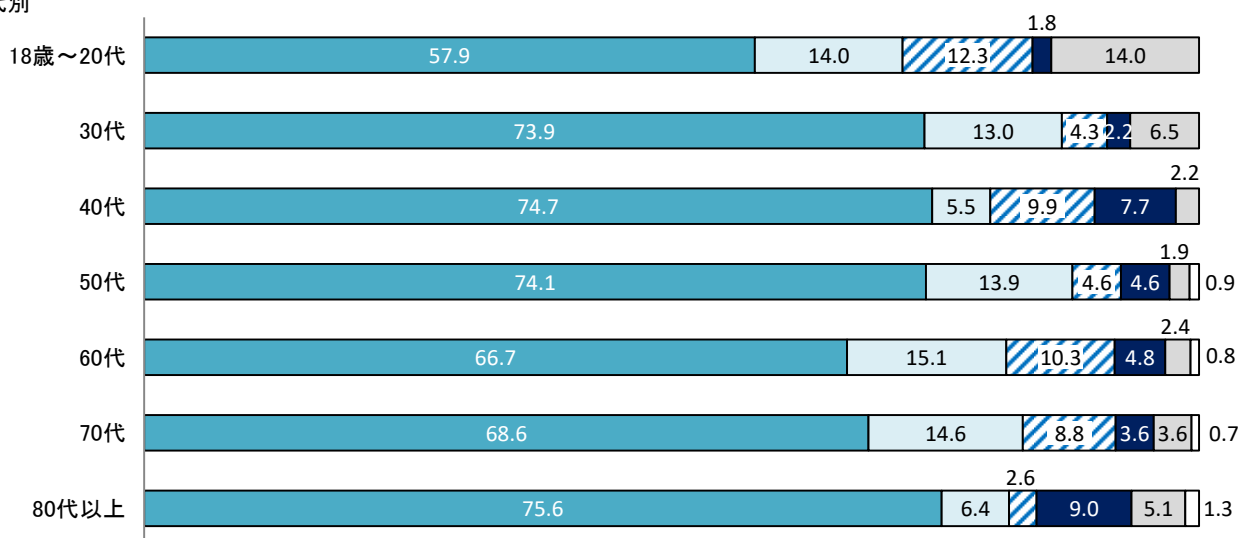
年代別では、「性別に関係なく適任者が選ばれるべき」は 30 代 73.9%、40 代 74.7%、50 代 74.1%と 7 割台が続いた。18 歳～20 代は 57.9%と他年代より低く、「わからない」が 14.0%と判断保留の傾向が強かった。80 代以上では「性別に偏りがあっても問題ない」が 9.0%と他年代に比べて高く、世代による意識差もみられた。

問 12（自治会などの地域活動）とのクロス集計では、地域活動で「男性が多い」と認識している層では、「女性が参加しやすい環境づくりが必要」とする割合が 16.9%と一定割合を占め、地域活動の男女構成に課題意識を持つ傾向がみられた。

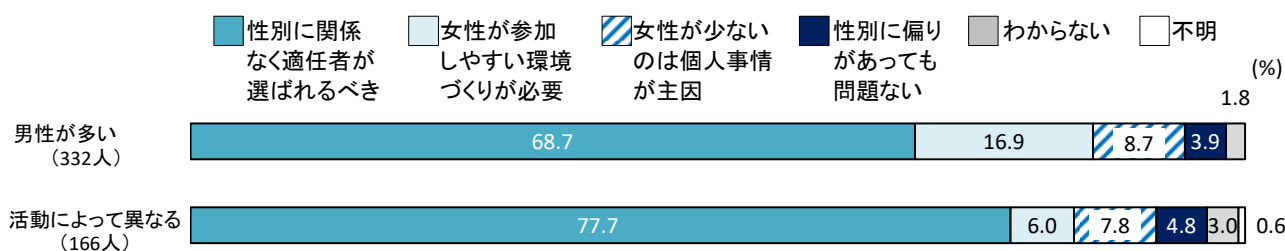
■男女別



■年代別



■クロス集計 問12「自治会などの地域活動」×問14「地域リーダーの男女構成」



進路・職業分野の男女差

問 15 長野県では、進路や職業分野に男女の偏りが見られる（例：工業系は男子、看護系は女子など）との指摘があります。あなたは、こうした「男女の偏り」がどの程度あると思いますか。

◆進路や職業の男女偏り「ある」82%

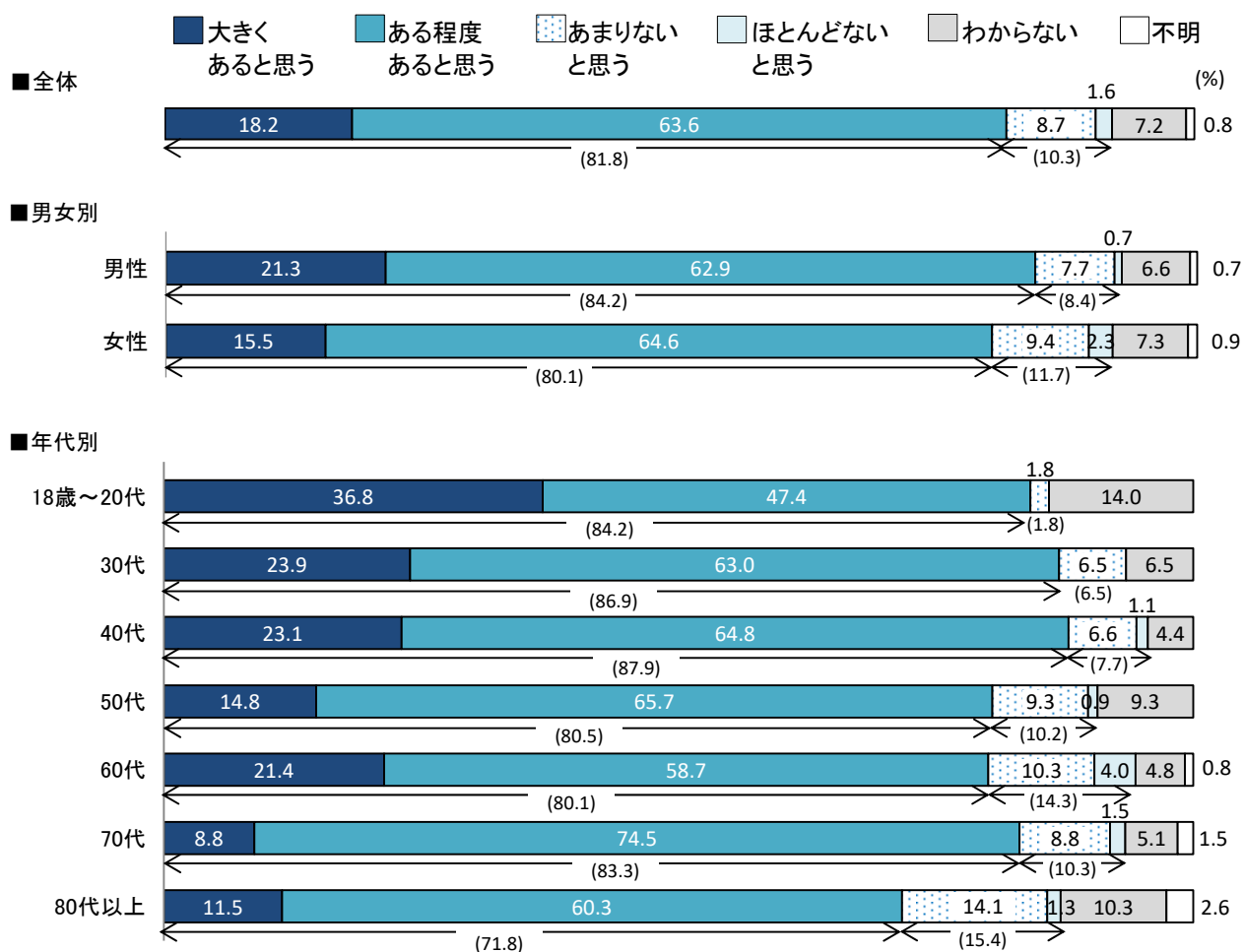
集計表52ページ

進路や職業分野における男女の偏りについて、「大きくあると思う」が18.2%、「ある程度あると思う」が63.6%となり、「偏りがある」と認識する層は合計81.8%に達した。一方、「あまりないと思う」は8.7%、「ほとんどないと思う」は1.6%で、「偏りはない」と認識する層は合計10.3%にとどまった。「わからない」は7.2%だった。

男女別では、「偏りがある」は男性84.2%、女性80.1%で、ともに8割を超えた。

年代別では、「偏りがある」は40代87.9%、30代86.9%、18歳～20代84.2%と高い割合となった。80代以上は71.8%と、他年代より低いものの7割を超えた。

「大きくあると思う」は18歳～20代が36.8%で最も高く、70代8.8%、80代以上11.5%を大きく上回った。



進路・職業差の要因

問 16 進路や職業分野に男女の違いが生じる主な要因として、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

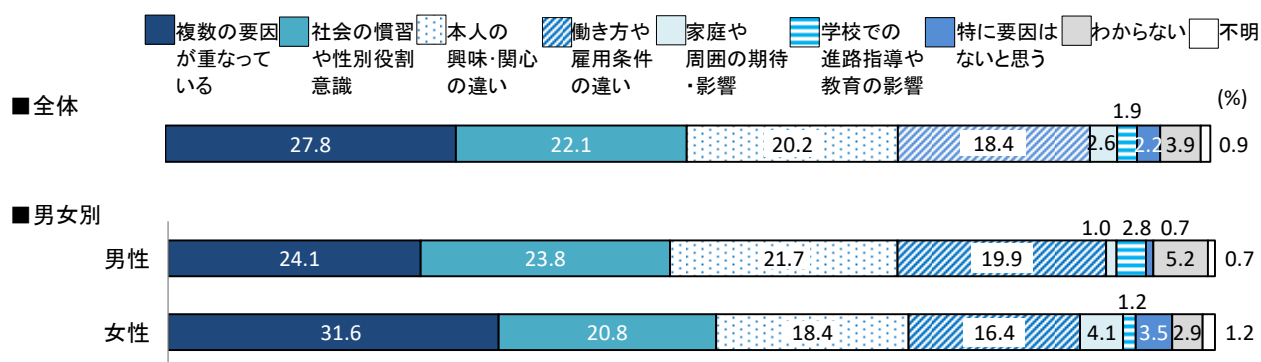
◆「複数要因」28%で最多

集計表53ページ

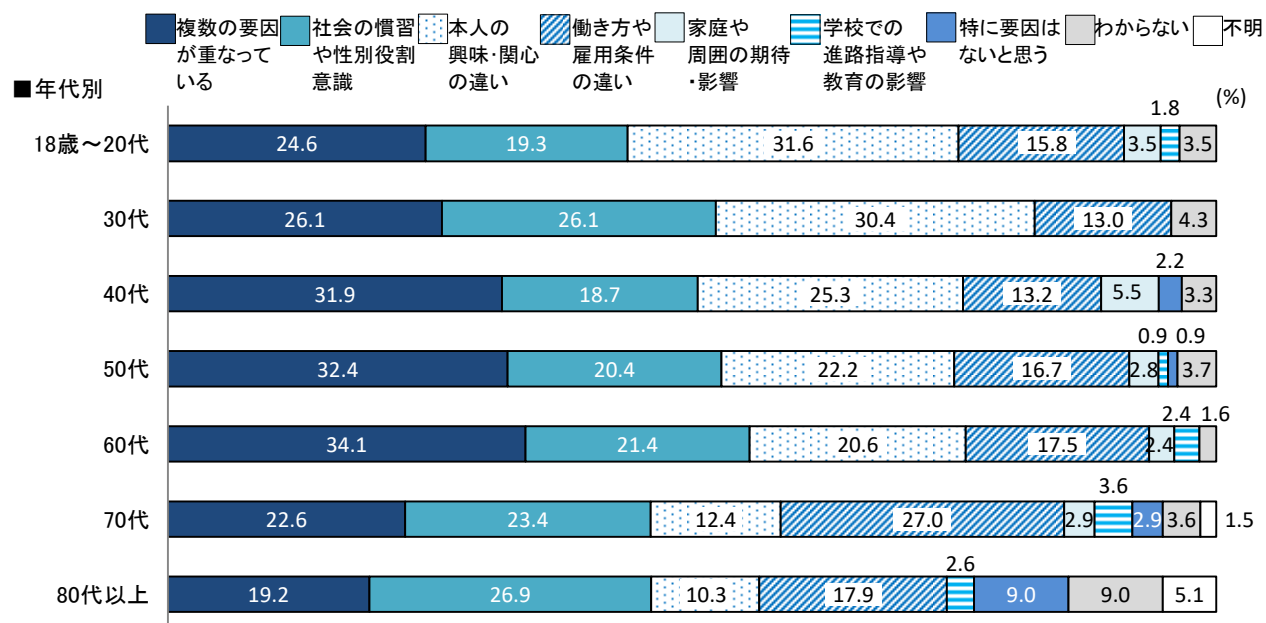
進路や職業分野に男女差が生じる主な要因について考えを聞いたところ、「複数の要因が重なっている」が27.8%で最多となった。次いで「社会の慣習や性別役割意識」が22.1%、「本人の興味・関心の違い」が20.2%、「働き方や雇用条件の違い」が18.4%で続いた。

「家庭や周囲の期待・影響」は2.6%、「学校での進路指導や教育の影響」は1.9%、「特に要因はないと思う」は2.2%とわずかだった。

男女別では、「複数の要因が重なっている」は男性24.1%に対し女性31.6%で、女性が7.5ポイント高かった。「本人の興味・関心の違い」は男性21.7%、女性18.4%だった。

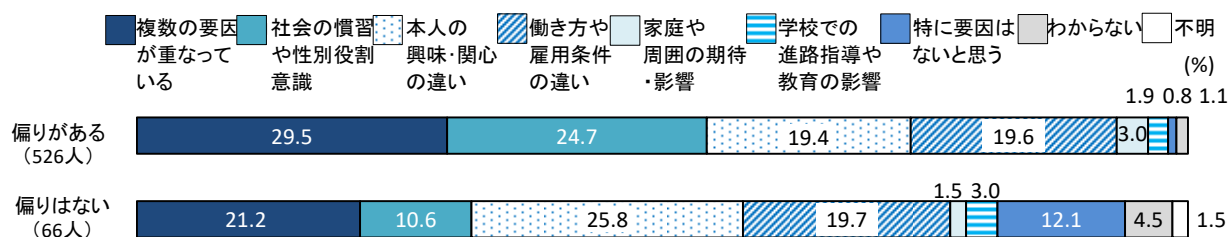


年代別では、18歳～20代で「本人の興味・関心の違い」が31.6%と最も高く、70代では「働き方や雇用条件の違い」が27.0%と上位に。80代以上では「社会の慣習や性別役割意識」が26.9%で最多となった。若年層では「本人の興味・関心の違い」を重視する割合が比較的高かった。一方、高齢層では「社会の慣習や性別役割意識」への着目が目立ち、世代による認識差もみられた。



問 15 とのクロス集計では、進路や職業分野に男女の偏りが「大きくある」「ある程度ある」と回答した「偏りがある」層では、「複数の要因が重なっている」(29.5%) や「社会の慣習や性別役割意識」(24.7%) の回答割合が高く、構造的要因を重視する傾向がみられた。一方、偏りが「ほとんどない」「あまりない」と回答した「偏りはない」層では、「本人の興味・関心の違い」(25.8%) の回答割合が最も高く、「特に要因はない」(12.1%) の回答も比較的高かった。

■クロス集計 問15「進路・職業分野の男女差」×問16「進路・職業差の要因」



女性議員の割合評価

問 17 長野県議会の女性議員割合は 19.3%で全国平均より 4.7 ポイント高く、全国 6 位、市町村議会の女性議員割合は 19.4%で全国平均より 1.8 ポイント高く、全国 9 位です（※）。この状況について、あなたはどのように感じますか。

◆「特に気にしたことはない」が過半数

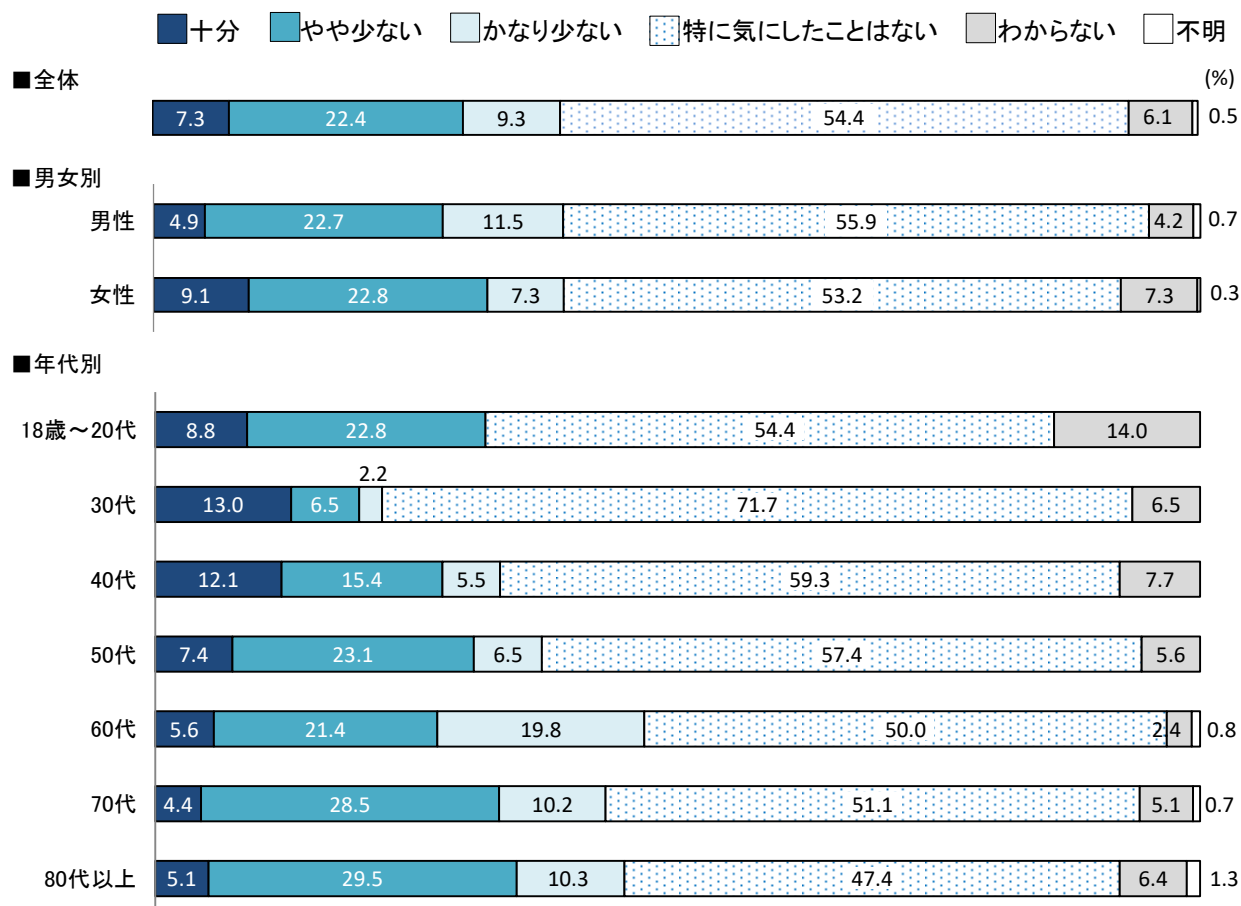
集計表54ページ

長野県議会や市町村議会における女性議員割合について、「特に気にしたことはない」が 54.4%で過半数を占めた。「やや少ない」は 22.4%、「かなり少ない」は 9.3%で、女性議員割合が少ないと感じる回答は合計 31.7%となった。「十分」は 7.3%、「わからない」は 6.1%だった。

男女別では、「やや少ない」と「かなり少ない」を合わせた割合は男性 34.2%、女性 30.1%で、男性がやや高かった。「十分」は男性 4.9%、女性 9.1%だった。

年代別では、「かなり少ない」が 60代で 19.8%と最も高く、40代 5.5%、50代 6.5%を大きく上回った。30代では「特に気にしたことはない」が 71.7%に達し、全年代で最も高かった。

県議会や市町村議会の女性議員割合は、関心自体を持っていない層が半数を超える結果となり、政治分野のジェンダー課題に対する距離感もうかがえる。その一方で、3割は女性議員割合が少ないと感じており、女性参画不足を課題視する声も一定程度存在する。



女性議員割合のあり方

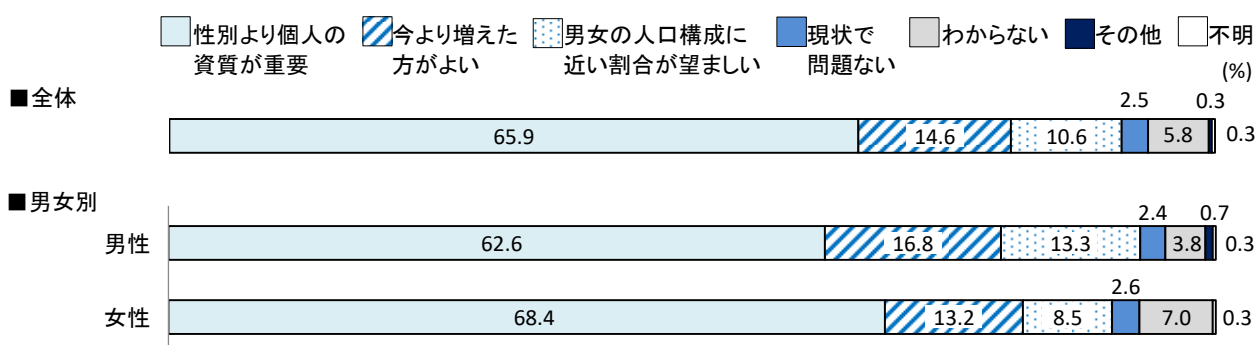
問 18 議会における女性議員の割合について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

◆「性別より個人の資質」66%で多数

集計表55ページ

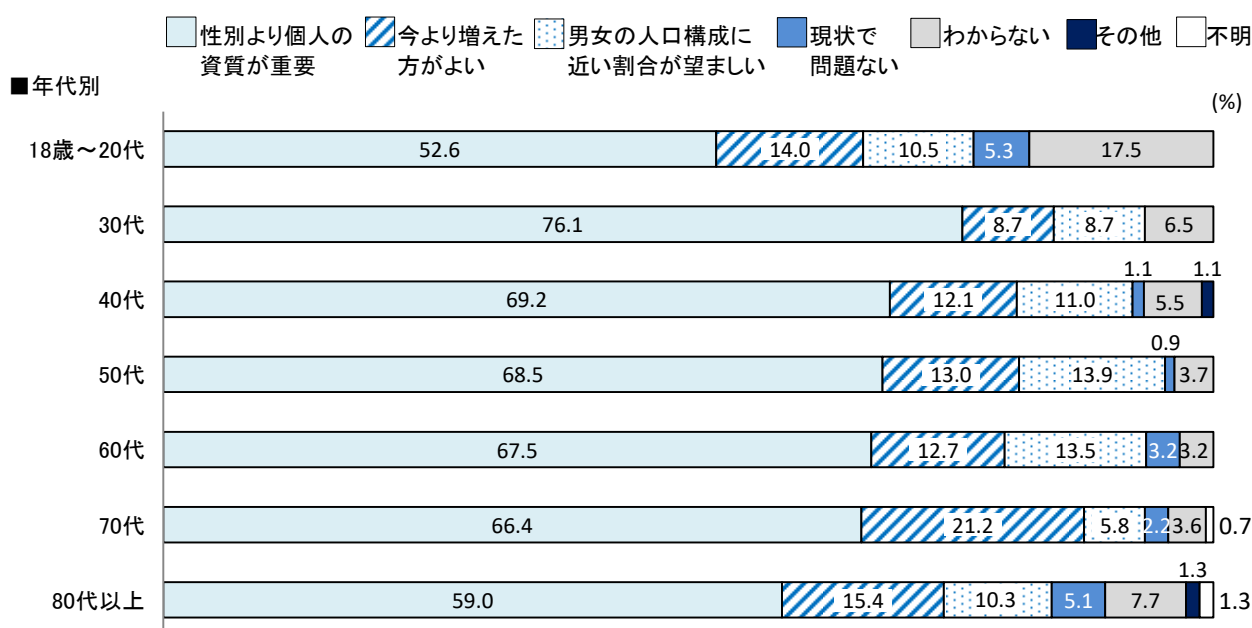
議会における女性議員割合について、「性別より個人の資質が重要」が65.9%で3分の2近くを占め、最多となった。次いで「今より増えた方がよい」が14.6%、「男女の人口構成に近い割合が望ましい」が10.6%だった。「現状で問題ない」は2.5%、「わからない」は5.8%だった。

議会の男女構成について「資質重視」の考え方が多数派だった一方で、「増えた方がよい」「人口構成に近づけるべき」とする回答も合計25.2%あり、女性議員拡大を求める声も一定割合みられた。



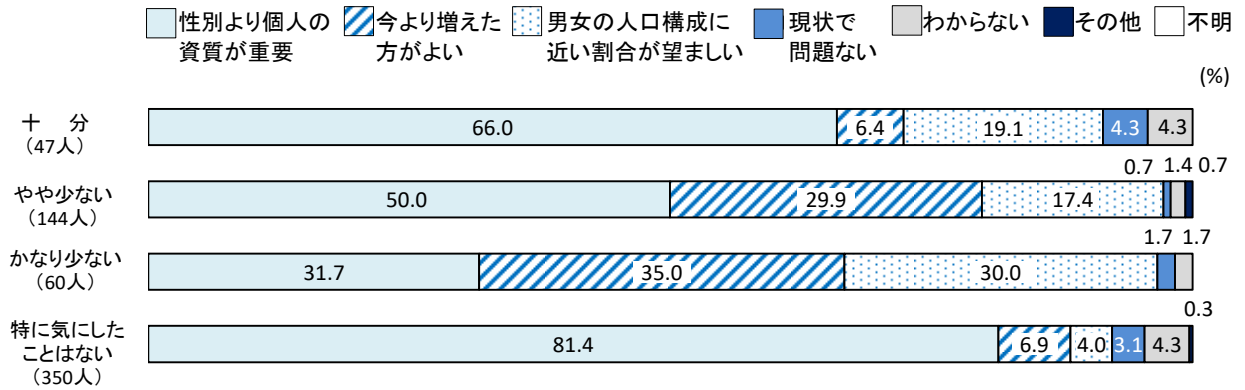
男女別では、「性別より個人の資質が重要」は男性62.6%、女性68.4%で、女性が5.8ポイント高かった。「今より増えた方がよい」は男性16.8%、女性13.2%、「男女の人口構成に近い割合が望ましい」は男性13.3%、女性8.5%だった。

年代別では、「性別より個人の資質が重要」は30代が76.1%と最も高く、18歳～20代では52.6%と比較的低かった。70代では「今より増えた方がよい」が21.2%で、他年代よりやや高い割合となった。若年層では「わからない」も比較的高く、判断保留傾向もみられた。



問17（女性議員の割合評価）とのクロス集計では、女性議員割合が「かなり少ない」と感じている層では、「今より増えた方がよい」とする回答割合が最多となり、女性議員拡大への積極姿勢がみられた。一方、「特に気にしたことはない」と回答した層では、「性別より個人の資質が重要」が8割を占め、人数構成より個人の能力や適性を重視する傾向がみられた。

■クロス集計 問17「女性議員の割合評価」×問18「女性議員割合のあり方」



女性議員の障壁

問 19 女性が議員になりにくい要因として、最も大きいと思うものはどれですか。

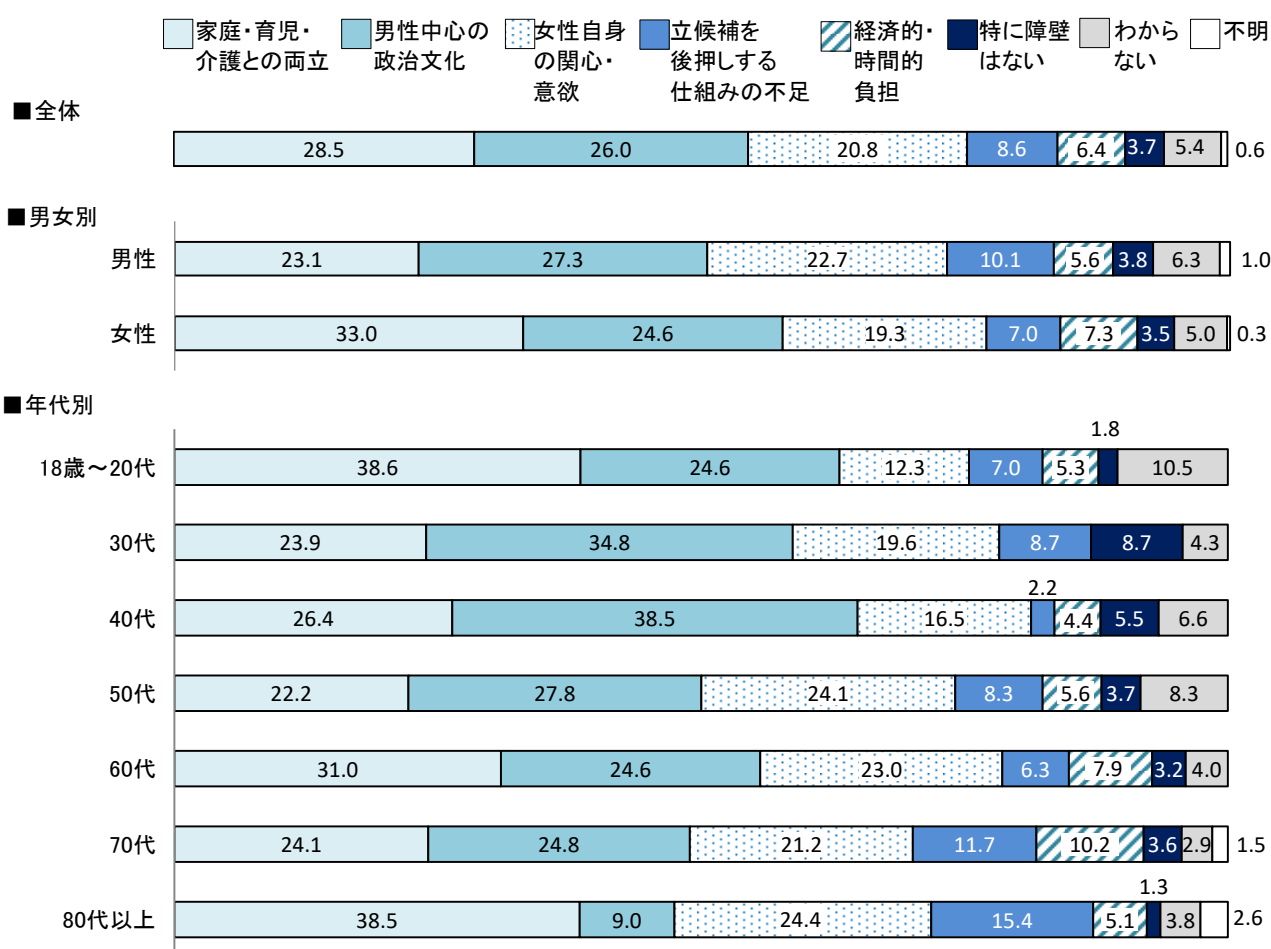
◆「家庭との両立」29%で最多

集計表56ページ

女性が議員になりにくい要因を聞いたところ、「家庭・育児・介護との両立」が28.5%で最多となった。次いで「男性中心の政治文化」が26.0%、「女性自身の関心・意欲」が20.8%で続いた。「立候補を後押しする仕組みの不足」は8.6%、「経済的・時間的負担」は6.4%だった。「特に障壁はない」は3.7%、「わからない」は5.4%にとどまった。

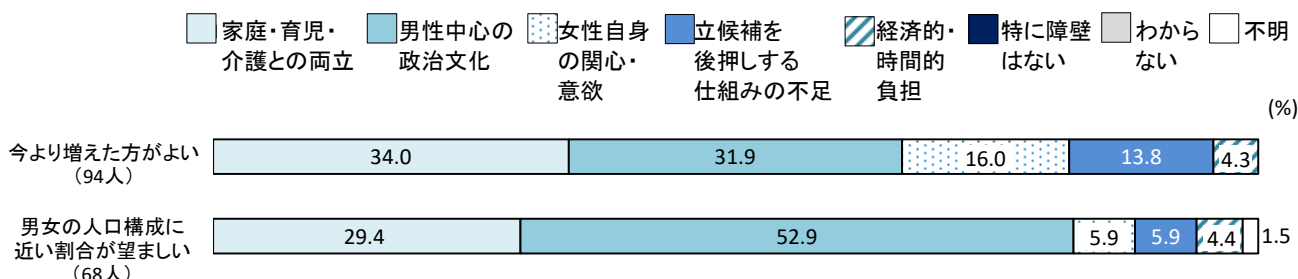
男女別では、「家庭・育児・介護との両立」は男性23.1%に対し女性33.0%で、女性が9.9ポイント高い結果となり、生活面の負担感が強く意識されている。一方、「男性中心の政治文化」は男性27.3%、女性24.6%で、男性がやや高かった。

年代別では、18歳～20代と80代以上で「家庭・育児・介護との両立」が4割近くと最も高く、40代では「男性中心の政治文化」が38.5%で最多。年代によって要因の認識に違いもみられた。



問 18 とのクロス集計では、「人口構成に近い割合が望ましい」と考える層では、「男性中心の政治文化」を要因として挙げる割合が高かった。一方、「女性議員が今より増えた方がよい」と回答した層では、「家庭・育児・介護との両立」を挙げる割合が相対的に高く、女性議員増加をどう捉えるかによって、回答傾向には差がみられた。

■クロス集計 問18「女性議員割合のあり方」×問19「女性議員の障壁」



選択的夫婦別姓の認知

問 20 選択的夫婦別姓制度について、どの程度知っていますか。

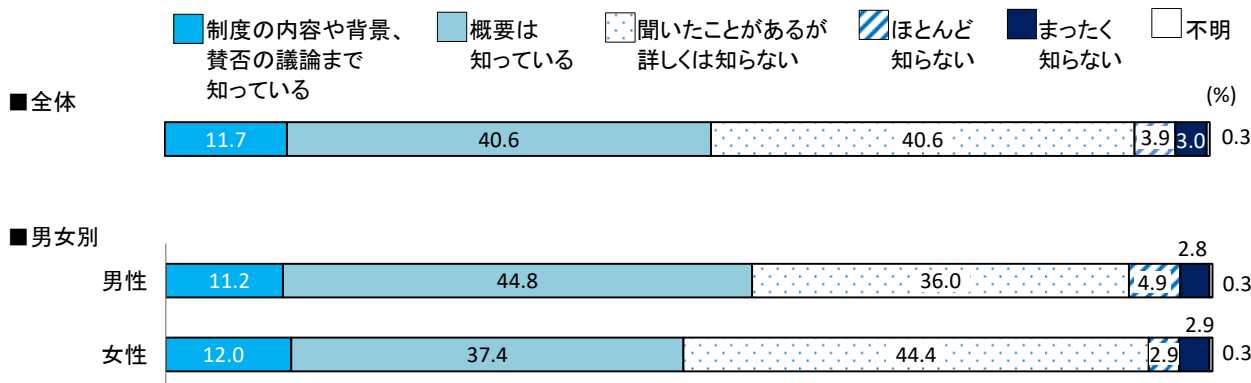
◆「知っている」5割 一方で「詳しく知らない」も4割

集計表57ページ

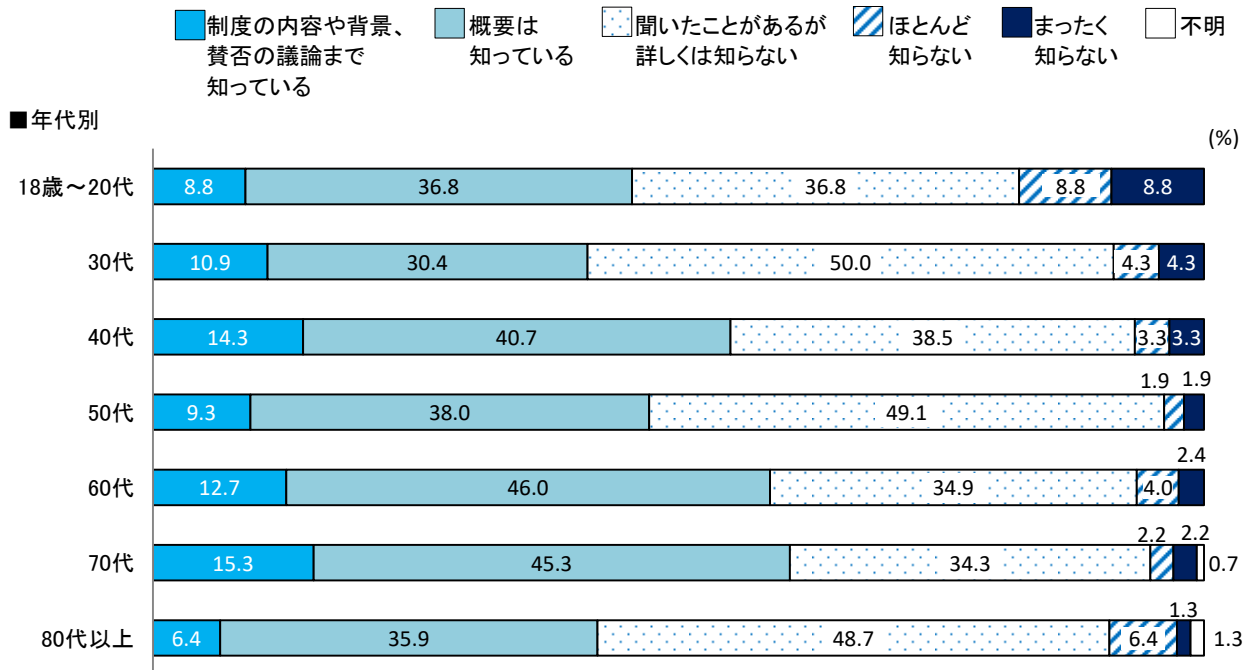
選択的夫婦別姓制度の認知度について、「制度の内容や背景、賛否の議論まで知っている」は11.7%、「概要は知っている」は40.6%で、制度内容を一定程度把握している層は合計52.3%となった。一方、「聞いたことがあるが詳しくは知らない」は40.6%を占め、「ほとんど知らない」は3.9%、「まったく知らない」は3.0%だった。

選択的夫婦別姓制度は、知っていると回答した層が5割を超えた一方で、詳しくは知らないとする層も4割に上り、理解度には差がある結果となった。

男女別では、「概要は知っている」は男性44.8%、女性37.4%で男性がやや高かった。「聞いたことがあるが詳しくは知らない」は女性が44.4%で、男性を8.4ポイント上回った。



年代別では、「制度の内容や背景、賛否の議論まで知っている」は70代15.3%、40代14.3%で比較的高かった。18歳～20代では「ほとんど知らない」と「まったく知らない」がそれぞれ8.8%となり、他年代に比べて若年層の認知度が低い傾向もみられた。



選択的夫婦別姓への賛否

問 21 選択的夫婦別姓制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

◆「慎重議論必要」30%で最多

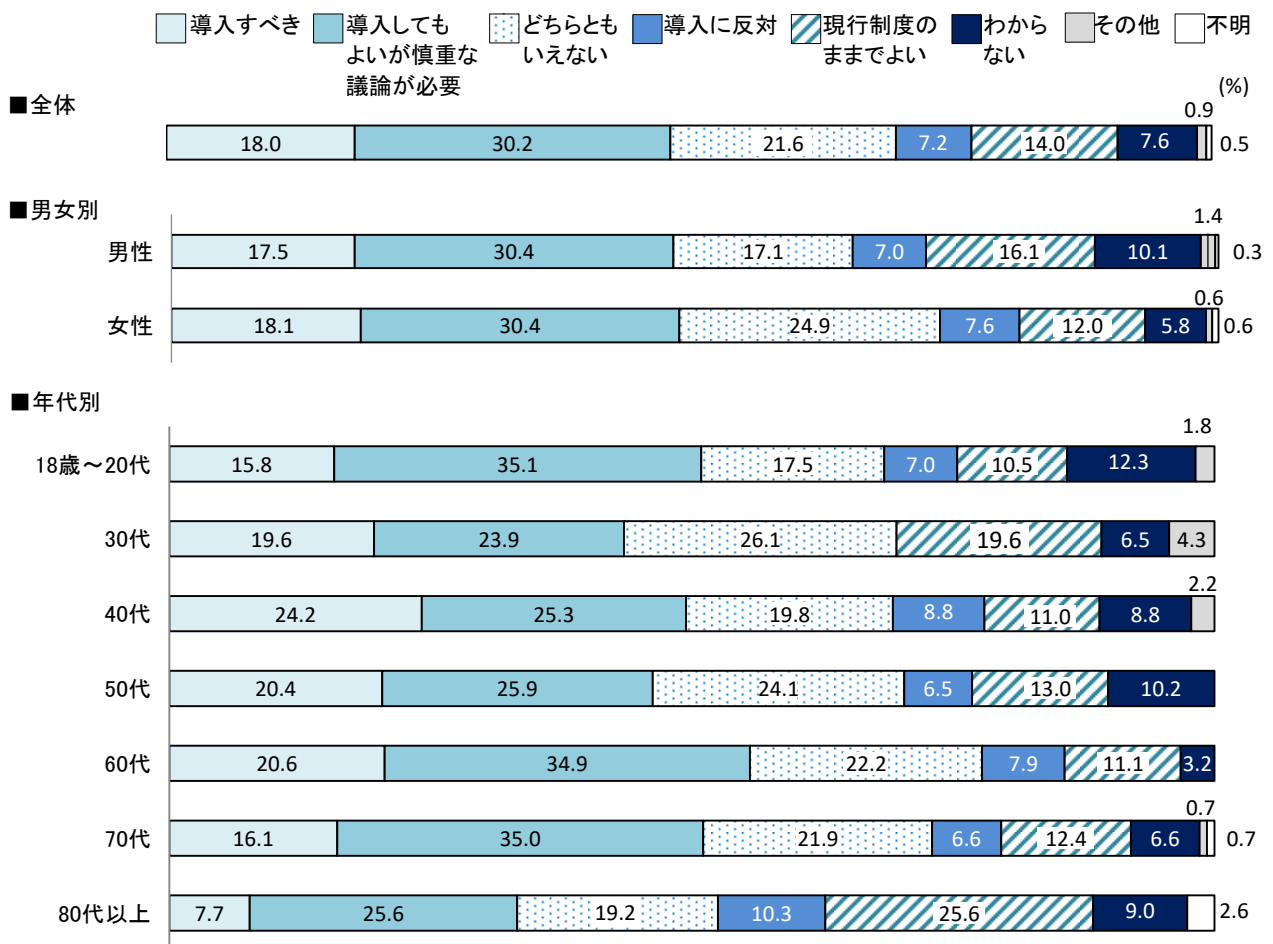
集計表58ページ

選択的夫婦別姓制度について、「導入すべき」は18.0%、「導入してもよいが慎重な議論が必要」が30.2%と3割を占めた。一方、「導入に反対」は7.2%、「現行制度のままでよい」は14.0%で、現状維持または反対と回答した層は合計21.2%だった。「どちらともいえない」は21.6%で2割を超えた。「わからない」は7.6%だった。

「慎重な議論が必要」「どちらともいえない」が上位を占め、制度内容や社会的影響を見極めたいとの意識もうかがえる。

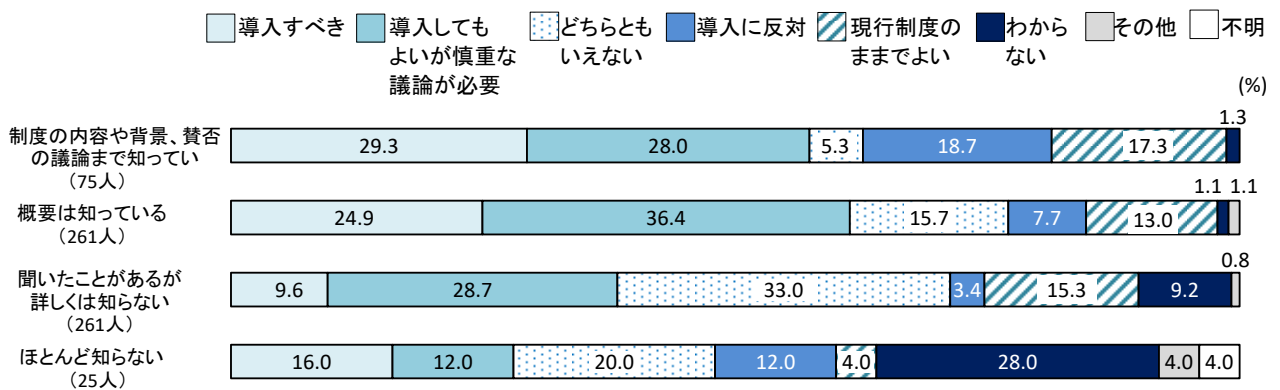
男女別では、「導入すべき」は男性17.5%、女性18.1%でほぼ同水準となった。「どちらともいえない」は女性24.9%、男性17.1%で女性が7.8ポイント高かった。

年代別では、「導入すべき」は40代が24.2%で最も高く、80代以上は7.7%にとどまった。80代以上では「現行制度のままでよい」が25.6%と全年代で最も高く、高齢層ほど現行制度維持志向が強い傾向もみられた。



問20（選択的夫婦別姓の認知）とのクロス集計では、制度内容や背景、賛否議論まで知っている層では、「導入すべき」とする割合が高く、「概要は知っている」とする層は「慎重な議論が必要」との回答が多かった。一方、「詳しくは知らない」とする層では、「どちらともいえない」が最多。「ほとんど知らない」「まったく知らない」と回答した層では「わからない」が最多となり、制度理解度によって賛否判断に差が出る傾向がみられた。

■クロス集計 問20「選択的夫婦別姓の認知」×問21「選択的夫婦別姓への賛否」



選択的夫婦別姓導入の影響認識

問 22 選択的夫婦別姓制度が導入された場合、あなた自身や身近な人に影響があると思いますか。

◆「影響ない」56% 一方で影響あり23%

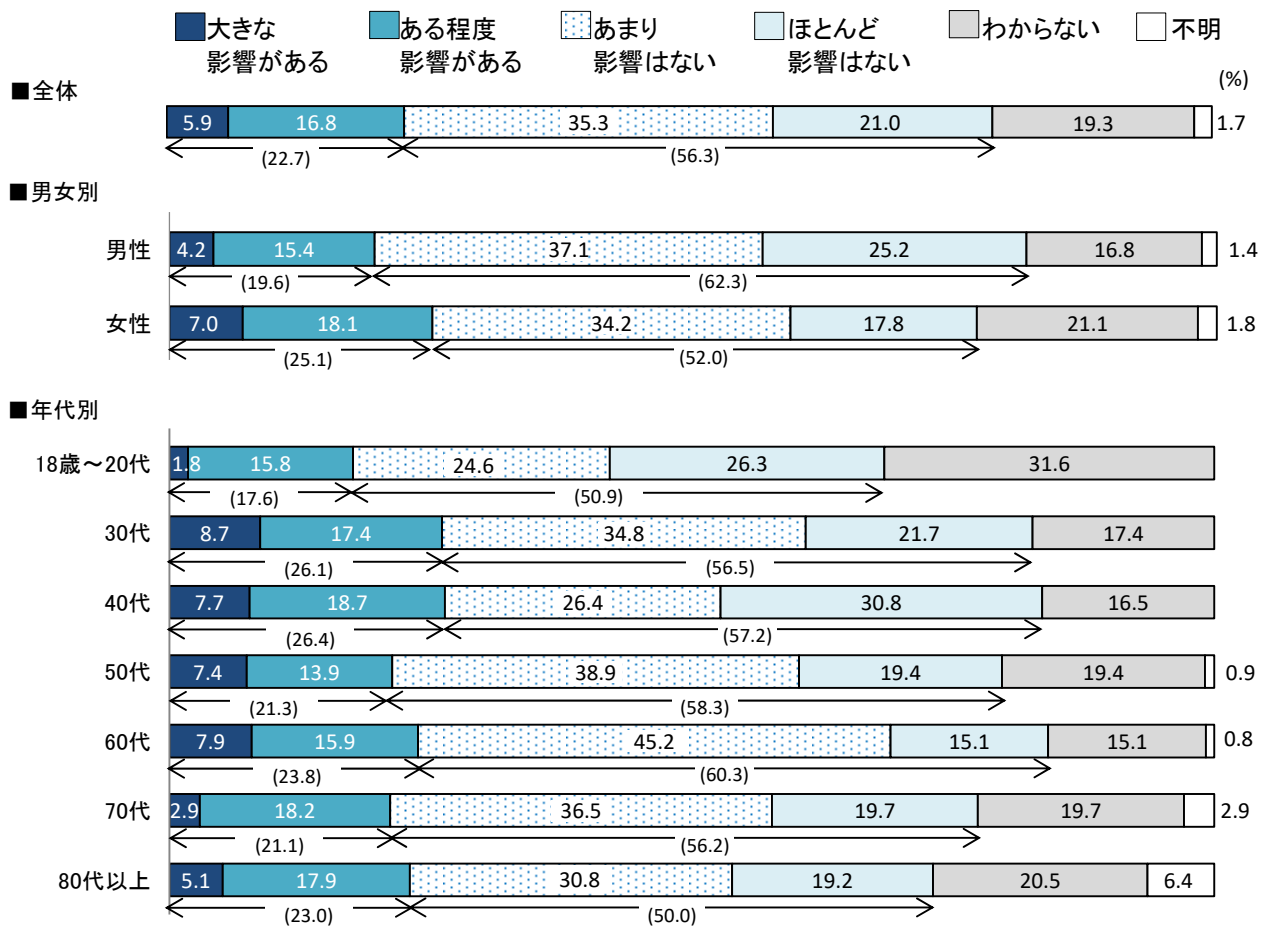
集計表59ページ

選択的夫婦別姓制度が導入された場合の影響について、「大きな影響がある」は5.9%、「ある程度影響がある」は16.8%で、両者を合わせた「影響がある」は計22.7%となった。一方、「あまり影響はない」は35.3%、「ほとんど影響はない」は21.0%で、両者を合わせた「影響はない」は計56.3%となった。「わからない」は19.3%だった。

制度導入による生活上への影響度は、「影響はない」が多数派となった一方、2割超は影響を感じる可能性を認識している結果となった。

男女別では、「影響がある」は男性19.6%、女性25.1%で、女性が5.5ポイント高かった。「影響はない」は男性62.3%、女性52.0%で、男性が10.3ポイント高かった。

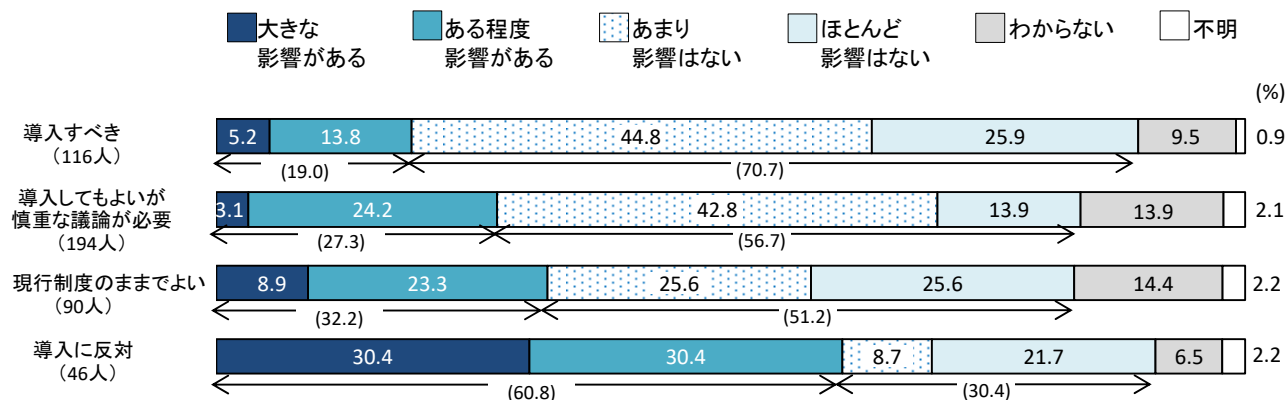
年代別では、「影響がある」は40代26.4%、30代26.1%で比較的高かった。18歳～20代では「わからない」が31.6%に達し、全年代で最も高かった。



問 21（選択的夫婦別姓への賛否）とのクロス集計では、制度を「導入すべき」と回答した層では、「影響はない」とする割合が7割を超えた。一方、「導入に反対」と回答した層では、「影響はない」が3割にとどまった。

制度導入への賛否によって影響認識には差がみられたが、全体では「影響はない」とみる回答が多数派だった。

■クロス集計 問21「選択的夫婦別姓への賛否」×問22「選択的夫婦別姓導入の影響認識」



選択的夫婦別姓導入の影響

問 23 問 22 で「大きな影響がある」「ある程度影響がある」と答えた方にお聞きします) どのような影響があると考えますか。

問 23 は自由記述設問のため概要説明省略（記述内容は 6 3 ～ 6 7 ページ掲載）

ジェンダー問題との距離感

問 24 男女格差やジェンダー平等（※）の問題を、どの程度「自分自身の問題」と感じていますか。

（※）ジェンダーとは、生物学的な男女の違いではなく、社会の中でつくられてきた「男らしさ」「女らしさ」などの性別に関する社会的・文化的な役割や期待のこと。

◆「社会問題だが自分とは距離ある」40%で最多

集計表60ページ

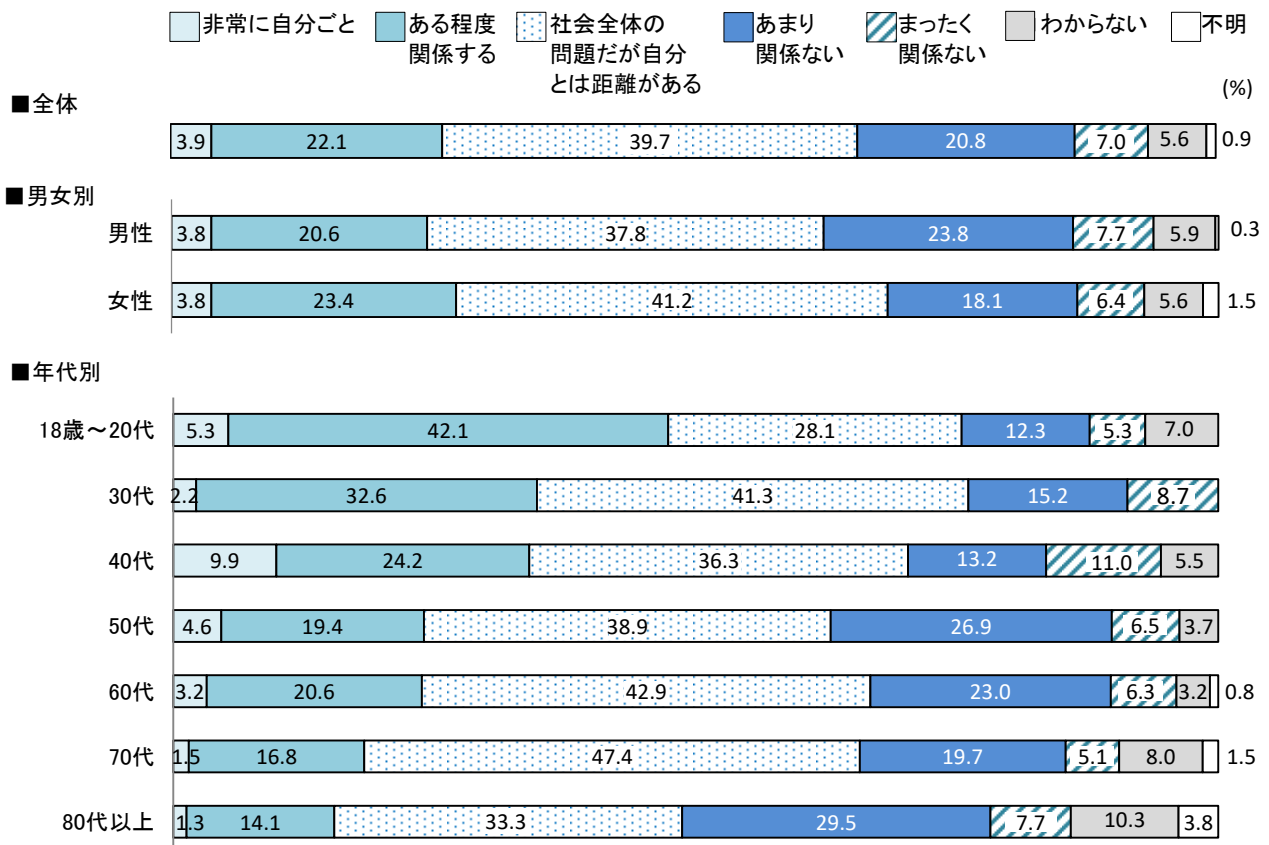
男女格差やジェンダー平等の問題について、「社会全体の問題だが自分とは距離がある」が39.7%で最多となった。次いで「ある程度関係する」が22.1%、「あまり関係ない」が20.8%で続いた。「非常に自分ごと」は3.9%、「まったく関係ない」は7.0%だった。ジェンダー問題を社会課題として認識しつつも、自身との直接的な関わりは薄いと感じる層が目立った。

「非常に自分ごと」と「ある程度関係する」を合わせた「関係する」層は26.0%。一方、「あまり関係ない」と「まったく関係ない」を合わせた「関係ない」層は27.8%だった。

男女別では、「自分に関係する」は男性24.4%、女性27.2%で、女性が2.8ポイント高かった。

年代別では、18歳～20代では「ある程度関係する」が42.1%で他年代に比べて高かった。一方、70代では「社会全体の問題だが自分とは距離がある」が47.4%で最も高かった。

自分に「関係する」と感じる割合は若年層ほど高く、世代による距離感の差がみられた。高齢層では、自身との直接的関係を感じにくい傾向もうかがえた。



社会変化への関わり方

問 25 ジェンダーに関する社会的な変化について、あなた自身はどのように関わりたいと思いますか。

集計表61ページ

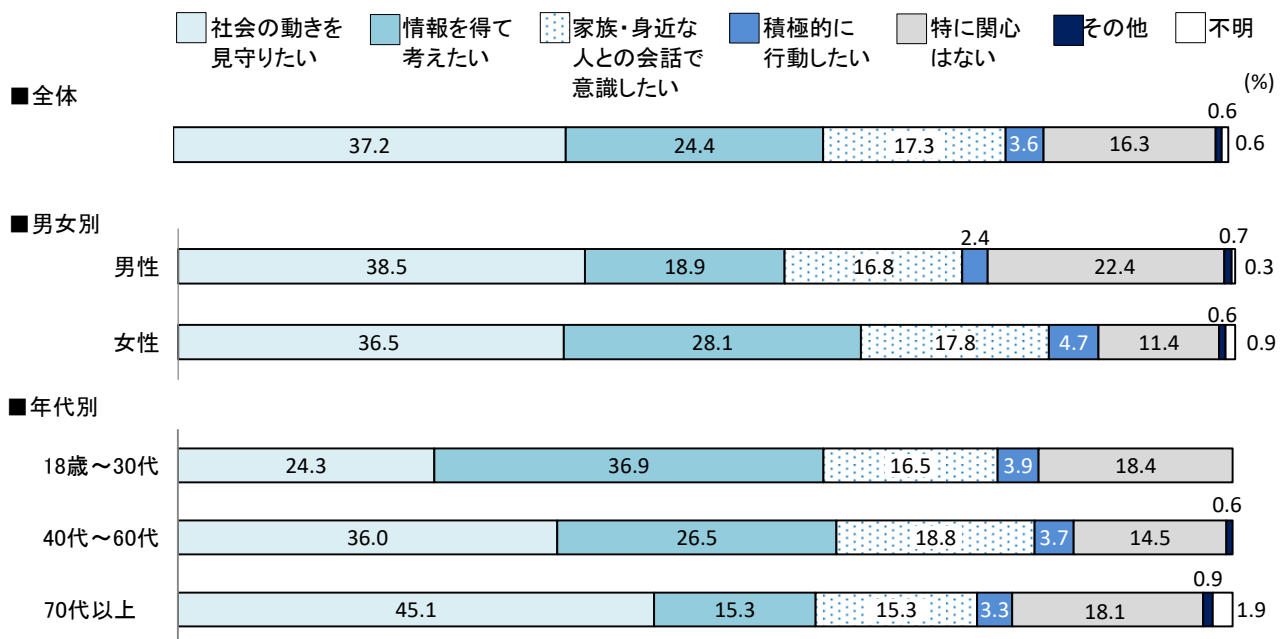
◆「社会の動きを見守りたい」37%で最多

ジェンダーに関する社会的変化への関わり方について、「社会の動きを見守りたい」が37.2%で最多となった。次いで「情報を得て考えたい」が24.4%、「家族・身近な人との会話で意識したい」が17.3%が続いた。「特に興味はない」は16.3%、「積極的に行動したい」は3.6%にとどまった。

全体としては、積極行動よりも、情報収集や状況注視を通じて関わりたいと考える層が多数を占めた。

男女別では、「情報を得て考えたい」は女性28.1%、男性18.9%で、女性が9.2ポイント高かった。「特に興味はない」は男性22.4%、女性11.4%で、男性が11.0ポイント高かった。

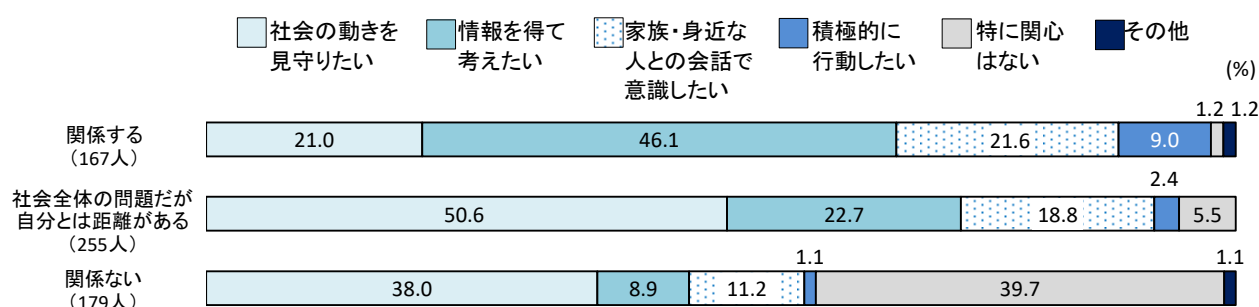
年代別では、18歳～30代で「情報を得て考えたい」が36.9%と高く、70代以上では「社会の動きを見守りたい」が45.1%に達した。



問 24 (ジェンダー問題との距離感) とのクロス集計では、ジェンダー問題を「非常に自分ごと」「ある程度関係する」と回答した「関係する」層では、「情報を得て考えたい」が高く、主体的関与への意欲がみられた。

一方、「自分とは距離がある」と感じる層は「社会の動きを見守りたい」の回答が半数を占めた。「あまり関係ない」「まったく関係ない」と回答した「関係ない」層では、「特に興味はない」が最多となり、問題との距離感と関与姿勢には一定の関連がみられた。

■クロス集計 問24「ジェンダー問題との距離感」×問25「社会変化への関わり方」



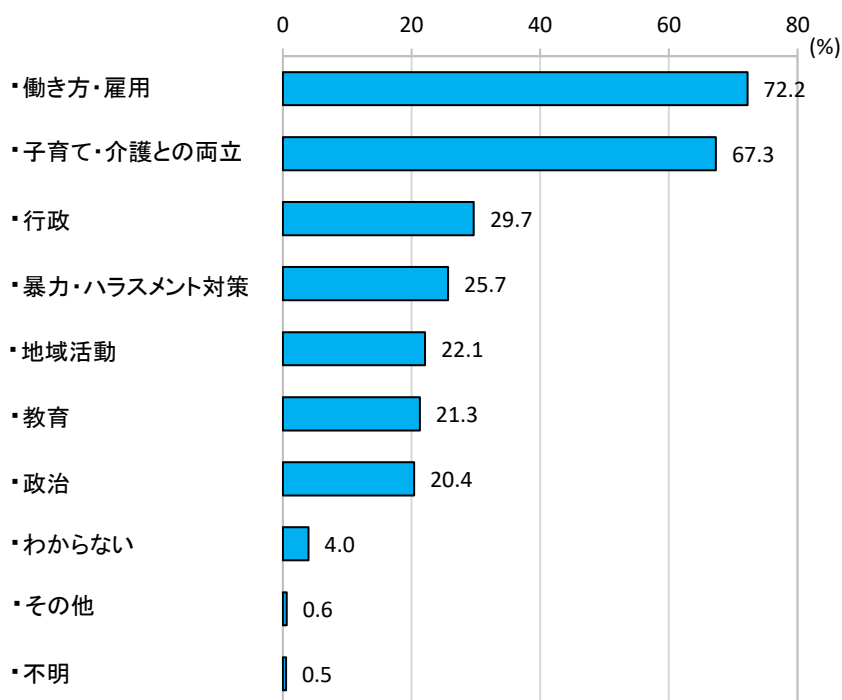
行政に求める重点施策

問 26 長野県や県内市町村が施策として男女格差の是正で力を入れるべき分野はどれだと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。

集計表62ページ

◆「働き方・雇用」72%、「両立支援」67%

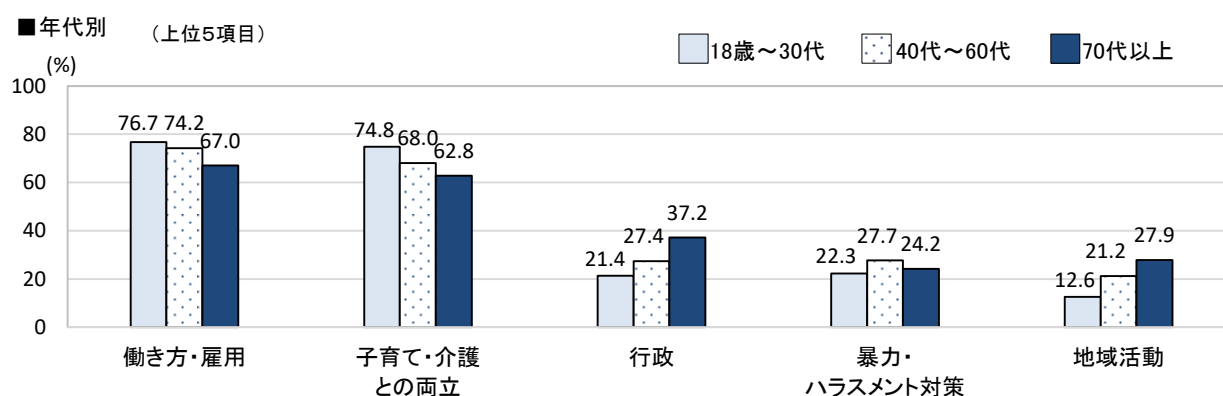
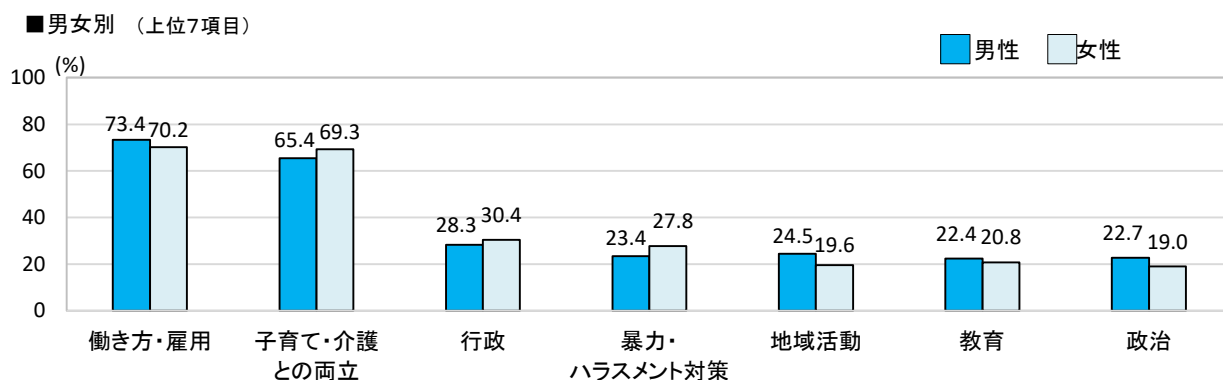
長野県や県内市町村が男女格差是正で力を入れるべき分野を3つ以内で聞いたところ、「働き方・雇用」が72.2%で最多となった。次いで「子育て・介護との両立」が67.3%で続き、この2項目が突出した。3番目以降では、「行政」29.7%、「暴力・ハラスメント対策」25.7%、「地域活動」22.1%、「教育」21.3%、「政治」20.4%の順となった。



男女格差是正策では、「働き方」と「両立支援」への回答が特に高かった一方、政治分野や地域活動は比較的低かった。

男女別では、「子育て・介護との両立」は女性が69.3%で男性より3.9ポイント高かった。「政治」は男性22.7%、女性19.0%、「暴力・ハラスメント対策」は女性27.8%、男性23.4%だった。

年代別では、18歳～30代、40代～60代、70代以上のいずれでも「働き方・雇用」と「子育て・介護との両立」が上位2項目となった。この2項目は若年層ほど割合が高く、若年・子育て世代で仕事と家庭の両立支援への期待が高い傾向がうかがえた。一方、70代以上では「地域活動」や「行政」を挙げる割合が他年代より比較的高く、年代によって重視する政策分野に一定の違いもみられた。



Ⅲ 調査票

「男女格差（ジェンダー平等）」県民意識調査 調査票

1

＜ご回答に際してのお願い＞

- ❖ 封筒の宛名に書かれたご本人様の回答をお願いいたします。
- ❖ ご回答は、選択肢の番号を□の中にご記入ください。
- ❖ ご回答の内容によって、質問をとばしていただく場合があります。その場合は、指示に従ってお進みください。
- ❖ 「その他」の回答は、() 内に内容をご記入ください。

【A 男女格差に関する基礎意識】

問 1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

- ① そう思う
- ② ある程度そう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ そう思わない
- ⑤ どちらともいえない

問 2 日本社会における男女間の格差は、どの程度解消されていると思いますか。

- ① 解消されている
- ② まあ解消されている
- ③ あまり解消されていない
- ④ 解消されていない
- ⑤ わからない

【B 性別による不利益経験】

問 3 あなたご自身は、男性・女性といった性別によって、不利益を受けたと感じたことがありますか。

- ① 現在も感じている → 問 4 (次頁)、問 5 へ
- ② 過去に感じたことはあるが現在はない → 問 4 (次頁)、問 5 へ
- ③ 感じたことはない → 問 5 (次頁) へ
- ④ わからない → 問 5 (次頁) へ
- ⑤ 答えたくない → 問 5 (次頁) へ

問4 (問3で「① 現在も感じている」「② 過去に感じたことはあるが現在はない」と回答した方にお聞きします)
 どのような場面で不利益を受けたと感じましたか。(該当する番号の左側に○印をお付けください)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> | ① 親のしつけ |
| <input type="checkbox"/> | ② 教育・進学 |
| <input type="checkbox"/> | ③ 就職 |
| <input type="checkbox"/> | ④ 職場・仕事・賃金・待遇 |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ 結婚 |
| <input type="checkbox"/> | ⑥ 家事・育児 |
| <input type="checkbox"/> | ⑦ 介護 |
| <input type="checkbox"/> | ⑧ 食事会・飲み会 |
| <input type="checkbox"/> | ⑨ 服装 |
| <input type="checkbox"/> | ⑩ トイレ |
| <input type="checkbox"/> | ⑪ 社会的な慣習や周りの意識・発言 |
| <input type="checkbox"/> | ⑫ その他 () |

(全員の方にお尋ねします)

【C 経済・職場における男女格差】

問5 あなたは、職場において男女は平等になっていると思いますか。

- ① 男性の方が非常に優遇されている
- ② どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ③ 平等
- ④ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ⑤ 女性の方が非常に優遇されている

問6 昇進・昇格において性別が影響すると思いますか。

- ① 大いに影響する
- ② ある程度影響する
- ③ あまり影響しない
- ④ まったく影響しない
- ⑤ わからない

問7 長野県内での働き方において、女性が不利になりやすい要因として、どれが大きいと思いますか。（該当する番号の左側に○印をお付けください）

- | | |
|--------------------------|--------------|
| <input type="checkbox"/> | ① 長時間労働の慣行 |
| <input type="checkbox"/> | ② 非正規雇用の多さ |
| <input type="checkbox"/> | ③ 管理職登用の仕組み |
| <input type="checkbox"/> | ④ 家事・育児負担の偏り |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ 地域の慣習・文化 |
| <input type="checkbox"/> | ⑥ 特にない |
| <input type="checkbox"/> | ⑦ わからない |

問8 長野県の第5次男女共同参画計画（2021～25年度）によると、県内の官庁や企業などの管理職に占める女性の割合は2017年度に8.4%で、全国平均を6.4ポイント下回っています。この状況について、あなたはどのように感じますか。

- ① 改善すべき
- ② 現状でもよい
- ③ 性別より個人の能力が重要
- ④ 特に問題を感じない
- ⑤ わからない

問9 育児・介護と仕事の両立支援制度について、あなたの認識に最も近いものはどれですか。

- ① 制度は整っており、性別に関係なく利用しやすい
- ② 制度はあるが、職場の雰囲気などで利用しづらい
- ③ 女性は利用しやすいが、男性は利用しづらい
- ④ 性別に関係なく利用しづらい
- ⑤ 制度自体を知らない

問10 あなたの職場や周囲では、性別による役割分担がどのようにとらえられていると思いますか。

- ① 性別による役割分担が明確に固定されている
- ② 一部の職種で偏りがある
- ③ 暗黙の期待として存在する
- ④ 性別による役割分担はほとんど見られない
- ⑤ わからない

問11 性別を理由に、進路やキャリアの選択が制限される要因は何だと思えますか。（該当する番号の左側に○印をお付けください）

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| <input type="checkbox"/> | ① 家庭や周囲の期待 |
| <input type="checkbox"/> | ② 学校での進路指導 |
| <input type="checkbox"/> | ③ 職場の慣行・制度 |
| <input type="checkbox"/> | ④ 社会の性別役割意識 |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ 本人の性別を意識することによる選択 |
| <input type="checkbox"/> | ⑥ 特にない |
| <input type="checkbox"/> | ⑦ わからない |

【D 地域社会・文化】

問12 自治会など、あなたの地元の地域活動における男女構成は、どう見えますか。

- ① 男性が多い
- ② 女性が多い
- ③ 男女がほぼ同じ
- ④ 活動によって異なる
- ⑤ わからない

問13 伝統的な祭りにおける性別による役割分担について、あなたはどのように思いますか。

- ① 伝統として尊重すべき
- ② 見直すべき
- ③ 一部変更すべき
- ④ わからない

問14 地域のリーダー（町内会長、PTA会長など）に男性が多い状況について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

- ① 性別に偏りがあっても問題ない
- ② 女性が参加しやすい環境づくりが必要
- ③ 性別に関係なく適任者が選ばれるべき
- ④ 女性が少ないのは個人事情が主因
- ⑤ わからない

問19 女性が議員になりにくい要因として、最も大きいと思うものはどれですか。

- ① 家庭・育児・介護との両立
- ② 男性中心の政治文化
- ③ 経済的・時間的負担
- ④ 立候補を後押しする仕組みの不足
- ⑤ 女性自身の関心・意欲
- ⑥ 特に障壁はない
- ⑦ わからない






問20 選択的夫婦別姓制度について、どの程度知っていますか。

- ① 制度の内容や背景、賛否の議論まで知っている
- ② 概要は知っている
- ③ 聞いたことがあるが詳しくは知らない
- ④ ほとんど知らない
- ⑤ まったく知らない

問21 選択的夫婦別姓制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

- ① 導入すべき
- ② 導入してもよいが慎重な議論が必要
- ③ どちらともいえない
- ④ 導入に反対
- ⑤ 現行制度のままでよい
- ⑥ わからない
- ⑦ その他 ()

問22 選択的夫婦別姓制度が導入された場合、あなた自身や身近な人に影響があると思いますか。

- ① 大きな影響がある  問 23、問 24(次頁)へ
- ② ある程度影響がある  問 23、問 24(次頁)へ
- ③ あまり影響はない  問 24(次頁)へ
- ④ ほとんど影響はない  問 24(次頁)へ
- ⑤ わからない  問 24(次頁)へ

問23 (問22で「① 大きな影響がある」「② ある程度影響がある」と答えた方にお聞きします) どのような影響があると考えますか。

(全員の方にお尋ねします)

【G ジェンダー意識】

問24 男女格差やジェンダー平等(※)の問題を、どの程度「自分自身の問題」と感じていますか。

- ① 非常に自分ごと
- ② ある程度関係する
- ③ 社会全体の問題だが自分とは距離がある
- ④ あまり関係ない
- ⑤ まったく関係ない
- ⑥ わからない

(※) ジェンダーとは、生物学的な男女の違いではなく、社会の中でつくられてきた「男らしさ」「女らしさ」などの性別に関する社会的・文化的な役割や期待のこと。

問25 ジェンダーに関する社会的な変化について、あなた自身はどのように関わりたいと思いますか。

- ① 積極的に行動したい
- ② 情報を得て考えたい
- ③ 家族・身近な人との会話で意識したい
- ④ 社会の動きを見守りたい
- ⑤ 特に関心はない
- ⑥ その他 ()

【H 総合】

問26 長野県や県内市町村が施策として男女格差の是正で力を入れるべき分野はどれだと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ① 政治
- ② 行政
- ③ 働き方・雇用
- ④ 子育て・介護との両立
- ⑤ 教育
- ⑥ 地域活動
- ⑦ 暴力・ハラスメント対策
- ⑧ わからない
- ⑨ その他 ()

問27 男女格差や男女平等に関して、特に改善すべき点や、あなた自身の経験・意見があればご自由にお書きください。

＜ありがとうございました＞

これからお聞きする事柄は、結果をまとめる上で必要となります。
お手数ですが、引き続き、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

F 1 あなたの性別 ① 男性 ② 女性 ③ 回答しない

F 2 あなたの年代 ① 10代 ⑤ 50代
② 20代 ⑥ 60代
③ 30代 ⑦ 70代
④ 40代 ⑧ 80代以上

F 3 あなたの職業 ① 事務系、技術系従事者 ⑥ 専業主婦・主夫
② 現業・サービス業系従事者 ⑦ パート・アルバイト
③ 役員・管理職・自由業 ⑧ 学生
④ 商工・自営業 ⑨ 無職
⑤ 農・林・漁業 ⑩ その他 ()

F 4 SNSの利用頻度

あなたは、X(旧Twitter)、Instagram、Facebook、YouTubeなどのSNSを、
どのくらいの頻度で利用していますか。

- ① ほぼ毎日利用している
② 週に数回利用している
③ 月に数回利用している
④ ほとんど利用していない
⑤ まったく利用していない

お忙しい中、誠に恐れ入りますが、[3月21日\(土\)までに](#)
ご返信のほど、よろしくお願い申し上げます。

本ホームページでは、報告書の一部を抜粋して掲載しています。長野県世論調査協会の会員の皆様には、報告書を郵送・電子メールでお届けしており、全ての調査結果をご覧いただくことができます。入会のお問い合わせは、[こちら](#)へどうぞ